

UR 都市機構
保全工事共通仕様書

田島ルーフィング対応製品

GUIDE BOOK

ガイドブック

令和5年版

UR都市機構保全工事共通仕様書

1章 一般共通事項	02
2章 防水修繕工事	
1節 一般事項	03
2節 屋根露出防水部分修繕工事	06
3節 屋根外断熱等部分修繕工事	11
4節 屋根外断熱露出防水工事	18
5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)	30
6節 脱気絶縁複合防水工事(非歩行用)	41
7節 バルコニー等床防水工事	45
8節 屋上架台・庇等防水工事	53
9節 トレンチピット等防水工事	57
10節 階段室床防水工事	59
11節 勾配屋根改修工事	63
材料紹介	69

1章 1節 一般共通事項(一般事項)

保全工事共通仕様書 1.1.3

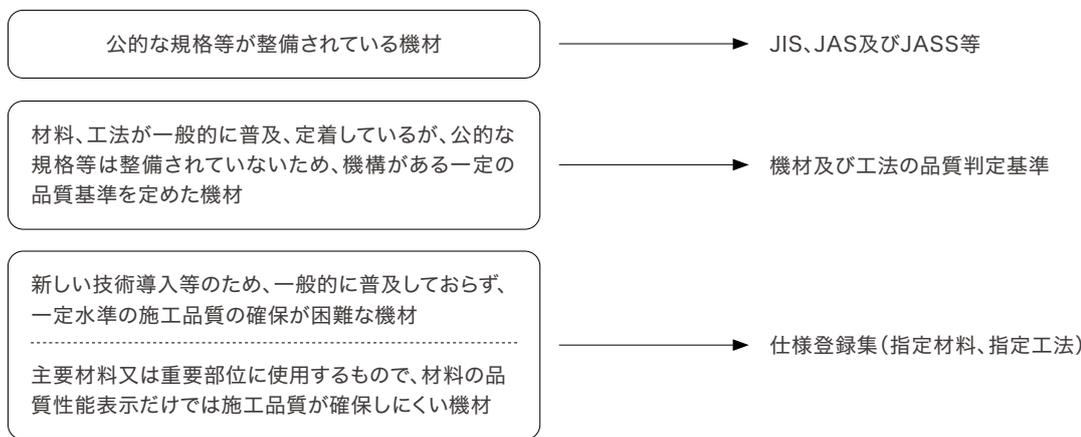
設計図書の適用

設計図書の適用 詳細は「保全工事共通仕様書」→ 3ページ

- 1 すべての設計図書は、相互に補完する。
- 2 設計図書の優先順位は、原則として、次の(1)から(12)までの順番のとおりとし、これにより難しい場合は、総則編1.1.5(疑義に対する協議等)による。
 - (1) 追加説明事項及び質疑応答書
 - (2) 現場説明書
 - (3) 特記仕様書
 - (4) 共通設計図以外の設計図
 - (5) 共通設計図(各種詳細図集)
 - (6) 保全工事共通仕様書
 - (7) 機材及び工法の品質判定基準、仕様登録集
 - (8) 都市再生機構工事特記基準
 - (9) 機材の品質判定基準
 - (10) 基盤整備工事共通仕様書
 - (11) 公共住宅建設工事共通仕様書
 - (12) 公共住宅建設工事機材の品質・性能基準

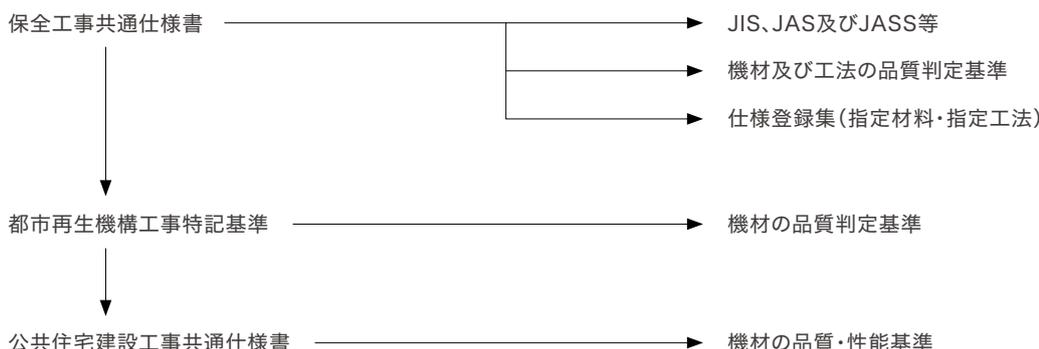
機材の取扱い 詳細は「機材及び工法の品質判定基準/仕様登録集」→ 3ページ

- 1 品質確認の位置付け
工事目的物で使用する材料、部品及び機器(以下「機材」という。)の品質、性能等の確認について、以下の基準等により確認することとする。



2 機材の構成

使用する機材の構成は以下による。



2章 1節 一般事項

保全工事共通仕様書 2.1.1/2.1.2

適用範囲／一般事項

適用範囲

本章は、防水層等の修繕工事に適用する。

一般事項 詳細は「保全工事共通仕様書」→ 30ページ

- ・新規防水を施工するまでに漏水のおそれのある場合は、既存防水層を撤去した当日に仮防水を施工する。
なお、仮防水材は、下地及び新規防水材との付着が良好なものとし、製造所の仕様による。
- ・本項に記載する「歩行・軽歩行・非歩行」の定義は、次のとおりとする。
歩行：不特定多数の人の歩行の用途に供し、利用の制限を設けない屋上利用。
軽歩行：防水層を傷つけない履物で歩行し、建物管理者などの限定的な人の歩行に供し、歩行頻度が比較的少ない屋上利用。
非歩行：防水層を傷つけない履物で歩行し、設備点検など歩行頻度が極めて少ない屋上利用。
- ・防水保証書の提出及び書式は、特記による。

2.1.1 表 屋根外断熱露出防水等の修繕区分と適用仕様

修繕工法		現況	露出アスファルト 防水常温工法	外断熱工法			外断熱露出 アスファルト 防水工法	適用仕様	ガイド ブック ページ	
				アスファルト 防水常温工法 (非断熱部)	コンクリート ブロック工法	アスファルト 成形板工法				
全面 修繕	外断熱露出 アスファルト防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	○	○※	○※	-	2.4.1 2.4.2	18～24	
		撤去方式	○	○	-	-	-			
	外断熱加硫ゴム系 ルーフィングシート防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	○	○※	○※	-	2.4.1 2.4.5	-	
		撤去方式	○	○	-	-	-			
部分 修繕	アスファルト防水常温工法 (P型)	かぶせ方式	○	-	-	-	-	2.2.1 2.2.2	6～9	
		撤去方式	○	-	-	-	-			
	アスファルト防水常温工法 (非断熱部)	かぶせ方式	-	○	-	-	-	2.3.1 2.3.2	11～13	
		撤去方式	-	○	-	-	-			
	外断熱露出 アスファルト防水工法 (非断熱部分修繕)	かぶせ方式	-	-	-	-	○	2.4.1 2.4.3	18・25	
		撤去方式	-	-	-	-	○			
	断熱部	コンクリートブロック工法		-	-	○	-	-	2.3.1 2.3.3	-
		アスファルト成形板工法		-	-	-	○	-	2.3.1 2.3.4	11 14～15
外断熱露出 アスファルト防水工法 (断熱部分修繕)		かぶせ方式	-	-	-	-	○	2.4.1 2.4.4	18・26	
	撤去方式	-	-	-	-	○				

※ 防水層より上の断熱部分を撤去し、既存の防水層は存置する。

* 表内グレー塗りつぶし箇所：弊社対応製品なし

2章 1節 一般事項

保全工事共通仕様書 2.1.2

一般事項

2.1.2 表 脱気絶縁複合防水の修繕区分と適用仕様

修繕工法		現況	アスファルト防水のうえ 断熱層、保護コンクリート	歩行用・軽歩行用		適用仕様	ガイドブック ページ	
				歩行用 ウレタンゴム系 塗膜防水工法	歩行用 ポリマーセメント系 塗膜防水工法			
全面修繕	歩行用 ウレタンゴム系 塗膜防水工法 (全面修繕1回目) (全面修繕2回目以降)	かぶせ方式	○	○	○	2.5.1 2.5.2 2.5.3	30～36	
		撤去方式	-	○※	○※			
	歩行用 ポリマーセメント系 塗膜防水工法 (全面修繕1回目) (全面修繕2回目以降)	かぶせ方式	○	○	○	2.5.1 2.5.5 2.5.6	-	
		撤去方式	-	○※	○※			
	軽歩行用 加硫ゴム系 ルーフィングシート防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	-	-	2.5.1 2.5.8	-	
		撤去方式	-	-	-			
	非歩行用	非歩行用改質アスファルト 防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	-	-	2.6.1 2.6.2	41～44
			撤去方式	-	-	-		
非歩行用加硫ゴム系 ルーフィングシート防水工法 (全面修繕1回目)		かぶせ方式	○	-	-	2.6.1 2.6.2	-	
		撤去方式	-	-	-			
部分修繕	歩行用 ウレタンゴム系 塗膜防水工法 (部分修繕)	かぶせ方式	-	○	-	2.5.1 2.5.4	30・38	
		撤去方式	-	○※	-			
	歩行用 ポリマーセメント系 塗膜防水工法 (部分修繕)	かぶせ方式	-	-	○	2.5.1 2.5.7	-	
		撤去方式	-	-	○※			

※ 撤去は保護コンクリート上部の防水層とし、保護コンクリートは存置する。

* 表内グレー塗りつぶし箇所：弊社対応製品なし

2章 1節 一般事項

保全工事共通仕様書 2.1.2

一般事項

2.1.3 表 塗膜防水等の修繕区分と適用仕様

修繕工法		現況	モルタル塗り、 コンクリート素地 等	タイル張り 等	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	超速硬化ウレタン 吹付工法	適用仕様	ガイド ブック ページ
バルコニー床・ 共用廊下排水溝	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	○	-	○	○	-	2.7.1 2.7.2 2.7.3 2.7.4	46～51	
		○	-	○	○	-			
	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	○	-	○	○	-	2.7.1 2.7.5 2.7.6 2.7.7	-	
		○	-	○	○	-			
屋上架台・庇 等	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	○	-	○	○	-	2.8.1 2.8.2	54	
	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	○	-	○	○	-	2.8.1 2.8.3	-	
	改質アスファルト系 塗膜防水工法	○	-	○	○	-	2.8.1 2.8.4	54・55	
トレンチピット 等	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	○	-	○	○	-	2.9.1 2.9.2	58	
	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	○	-	○	○	-	2.9.1 2.9.3	-	
階段室床 等	超速硬化 ウレタン吹付工法	○	-	-	-	○	2.10.1 2.10.2 2.10.3 2.10.4	60～62	
浴室	FRPシート防水 (紫外線硬化型)	○	○	-	-	-	2.12.1 2.12.2	-	
	FRP塗膜防水 (2液硬化型 ポリエステル樹脂 ノンスチレン型)	○	○	-	-	-	2.12.1 2.12.3	-	
	硬質ウレタン塗膜 防水	○	○	-	-	-	2.12.1 2.12.4	-	

* 表内グレー塗りつぶし箇所:弊社対応製品なし

2.1.4 表 勾配屋根改修の修繕区分と適用範囲

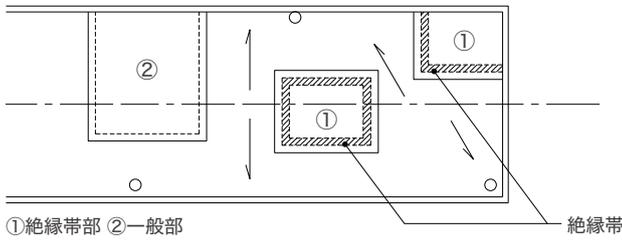
修繕工法		現況	シングル	スレート(平形)	適用仕様	ガイド ブック ページ
かぶせ方式	既存シングル改修工法(改質アスファルトシート防水)	○	-	-	2.11.1 2.11.2	64～67
	既存スレート(平形)改修工法(改修用金属屋根材)	-	-	○	2.11.1 2.11.3	-

* 表内グレー塗りつぶし箇所:弊社対応製品なし

2章 2節 屋根露出防水部分修繕工事

屋根防水等部分修繕における「絶縁帯の設置範囲」

絶縁帯設置図(例)



絶縁帯部と一般部 違いのポイント

- | | | |
|--------|------------|--------------------------------|
| ① 絶縁帯部 | 絶縁帯を設置する場合 | 棟を跨ぐ場合
勾配で水を受ける部位に補修範囲がある場合 |
| | 修繕工法 | アスファルト防水常温工法(P型) |
| ② 一般部 | 一般部の場合 | 棟を跨ぎ、かつ立上り部まで補修範囲がある場合 |
| | 修繕工法 | アスファルト防水常温工法(P型) |

保全工事共通仕様書 2.2.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋根露出アスファルト防水の部分修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕の防水工法は、2.1.1表によるアスファルト防水常温工法(P型)とする。

下地処理

既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。
なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

保全工事共通仕様書 2.2.2

アスファルト防水常温工法(P型)

適用範囲

本項は、アスファルト防水層の部分修繕に適用する。

下地処理

(1)かぶせ部の下地処理

- イ 既存防水層の浮砂、付着物はブラシ等でよく清掃し、除去する。
- ロ 既存防水層に生じているひび割れ等は、アスファルト防水工用シール材又は常温工法用アスファルトで処理し、水密性の向上を図る。
- ハ 勾配不良等で不陸調整が必要な部分は、ルーフィング類の増張り又は製造所が指定する下地調整材により処理する。
- ニ 既存防水層のふくれ、しわ、浮き等は切開し、コンクリート下地と既存防水層間の水分及び湿気を乾燥させた後、バーナー等で既存防水層のアスファルトを加熱溶融させ、ただちにローラーで押え付け密着させる。
また、必要に応じてアスファルト防水工用シール材又は常温工法用アスファルトを塗り込む。
- ホ 既存防水層の割れ、破断部分には、既存防水層の上に改質アスファルトルーフィングを張り、アスファルト防水工用シール材又はアスファルトコンパウンドで目つぶし塗りを行う。
- ヘ 既存防水層のジョイント部分に生じた剥離は、当該部分を除去し、十分に清掃した後、バーナー等で加熱溶融させ周囲と馴染ませる。
- ト 既存防水層の撤去部と残存部の境目は、新設防水層がなじみやすいように不陸処理する。
- チ 既存防水層の表面には1.2kg/m²以上(既存常温工法の上に常温工法で施工する場合1.0kg/m²以上)のアスファルト活性剤を塗布する。

2章 2節 屋根露出防水部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.2.2

アスファルト防水常温工法(P型)

下地処理

(2) 撤去部の下地処理

- イ 既存防水層を撤去した後、下地コンクリート、モルタル面の付着物はスクレーパー、ワイヤブラシ等によりケレンする。
除去できないアスファルトはバーナー等で溶解し、平滑にする。
- ロ 下地コンクリート及びモルタルのひび割れ等については、アスファルト防水工事用シール材等の充填により、雨漏れ等が生じないように速やかに処理する。
- ハ 架台天端等の露出している部分でひび割れ等がある場合は、3.2.2(Uカット可とう性エポキシ樹脂充填工法)又は3.2.3(エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法)による。
- ニ 下地コンクリート及びモルタルの勾配不良等で、不陸調整が必要な場合は、ルーフィング類の増張り、3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2の初期補修用プレミックスポリマーセメントモルタル(以下「メンテモルタル」という。)等又は製造所が指定する下地調整材により処理する。
- ホ 立上り部等の入隅部は、必要に応じて同質防水材料の増張りを行う。
また、出隅部は、防水層保護のため必要に応じてサンダー掛け等により5mm程度の面取りを行う。
- ヘ TVアンテナ引込架台等に装着されているケーブル留めの金具は取り外し、防水施工後、再度、取り付ける。
- ト 上記以外の処理及び防水層の施工範囲、端部処理等は特記による。

仕様登録工法 詳細は「仕様登録集」→ 338ページ

- (1) 下処理終了後、絶縁帯を設ける場合は既存防水層を200mm幅で撤去する。
- (2) リベースを1.2kg/m²の割合で塗布する。
その範囲に絶縁帯を設ける場合は、絶縁帯の外側13～15cmの位置まで、絶縁帯を設けない場合は指示された範囲内とする。
- (3) リベースが乾燥した後、ガムクールキャップEXの剥離紙をはがし、プロパンバーナーであぶり、ローラーで圧着する。
重ねしるはサイドラップ、エンドラップとも、100mmとする。
エンドラップの張り重ねは先端を三角にカットし、砂付部分にGCラインを塗り、張り重ねる。
- (4) 既存防水層と補修部分の取合いは、ガムクールキャップEXの張仕舞部にGCラインを塗布しシールする。

材料

材料は、「仕様登録集」によるほか、次による。

- イ 速乾性アスファルトプライマーは、製造所の仕様による。
- ロ アスファルト活性剤は、製造所の仕様による。
- ハ 常温工法用アスファルトコンパウンドは改質アスファルト又は常温工法用アスファルトとする。
- ニ 改質アスファルトルーフィングは合成繊維基材に改質アスファルトを含浸、塗覆させたルーフィングで、常温工法用アスファルトとの併用型(複合工法)、溶着型(トーチ工法)、自己接着型(自着工法)又はそれぞれに砂付き仕上げを施したものとする。
- ホ 防水層端部の止水に用いるシール材はアスファルト防水工事用シール材とし、品質は製造所の仕様による。

2章 2節 屋根露出防水部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.2.2

アスファルト防水常温工法(P型)

2.2.1 表 アスファルト防水常温工法(P型)の工程

① 絶縁帯部

工程	材料	使用量/m ²	種別※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	-	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	アスファルト活性化剤	1.2kg(1.0kg) (注)1	○	-	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	-	○	-	-
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	-	-	-
5	改質アスファルトルーフィング (注)2・3	-	○	○	ガムクールキャップEX	-
絶縁帯	絶縁帯用ルーフィング	-	-	-	ガムロンMGベースB20	-

② 一般部

工程	材料	使用量/m ²	種別※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	-	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	アスファルト活性化剤	1.2kg(1.0kg) (注)1	○	-	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	-	○	-	-
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	-	-	-
5	改質アスファルトルーフィング (注)2・3	-	○	○	ガムクールキャップEX	-

※ 既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

(注)1. 工程2の()内の数値は既存防水層がアスファルト常温工法の場合に適用する。

(注)2. 工程5に溶着型(トーチ工法)、自己接着型(自着工法)を使用する場合は、工程3及び工程4を省略する。

(注)3. 工程5に複合工法を使用する場合は、工程2を省略する。

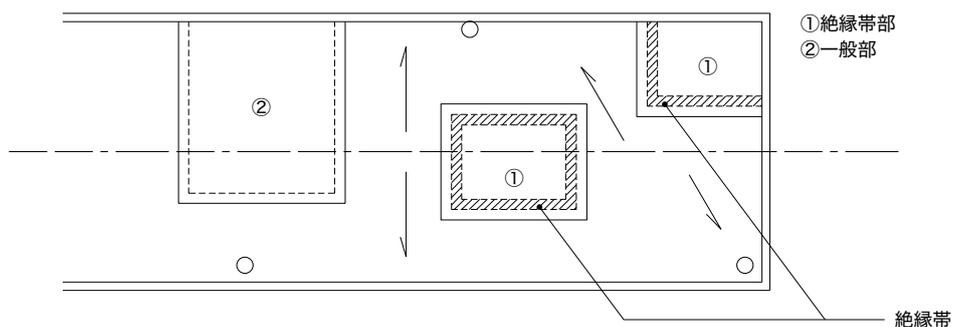
2章 2節 屋根露出防水部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.2.2

アスファルト防水常温工法(P型)

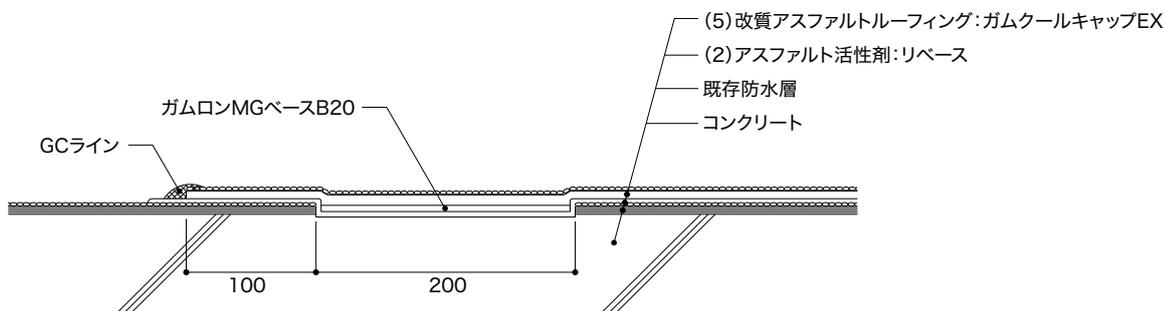
絶縁帯設置図(例) 詳細は「仕様登録集」→ 336ページ

絶縁帯設置図(例)

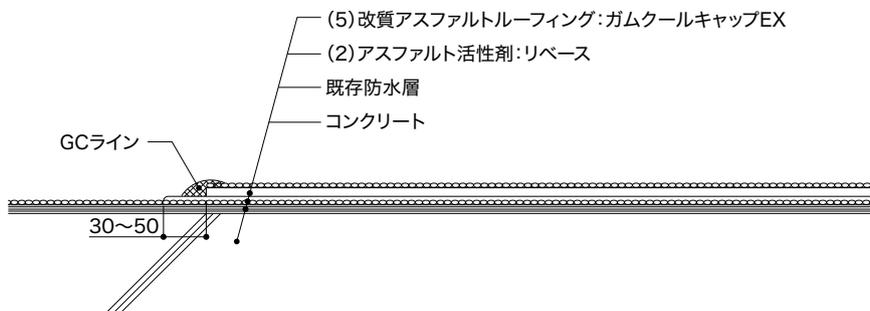


納まり図 詳細は「仕様登録集」→ 337ページ

① 絶縁帯部



② 一般部



2章 2節 屋根露出防水部分修繕工事

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理材。

16kg/缶

アスファルト活性化剤

リベース



既存防水層を活性化させるアスファルト系下地活性化剤。

20kg/缶

不陸調整材(製造所推奨品)

クールベース



水性ゴムアスファルト系下地調整材。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース 8kg/缶
クールベースパウダー 16kg/袋

改質アスファルト(自着工法)

ガムクールキャップEX



表面が砕石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。

JIS A 6013 露出単層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:3.5mm

絶縁帯用ルーフィング

ガムロンMGベースB20



絶縁帯用にカットされた両面粘着の改質アスファルトテープ。

200mm×12m巻

ゴムアスファルト系シール材

強力ガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ 20本/箱
20kg/缶、9kg/缶

変成シリコン系シール材(製造所推奨品)

GCライン(カート/ジャンボ)



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱
*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しません
のでご注意ください。

仮防水材(製造所推奨品)

アスグランド/グランドパウダー



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグランド 9kg/缶
グランドパウダー 12kg/袋

2章 3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋根外断熱防水工法における防水層の非断熱部の修繕工事及びコンクリートブロック工法、アスファルト成形板工法による外断熱の部分修繕工事に適用する。

防水工法種別

- (1) 当該修繕の防水工法は、2.1.1表によるアスファルト防水常温工法(非断熱部)とする。
- (2) 当該修繕の断熱工法は、2.1.1表によるコンクリートブロック工法又はアスファルト成形板工法とする。

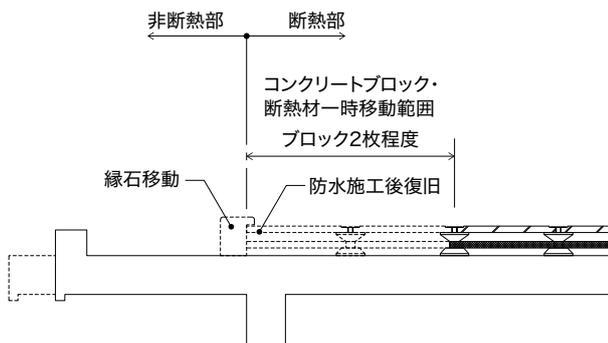
防水層(非断熱部)の修繕 詳細は「保全工事共通仕様書」→ 36ページ

- (1) 施工範囲
- (2) 施工準備
- (3) 移動・撤去
- (4) 下地処理

— 仕上材(断熱押え・断熱材等)の移動及び一時保管 —

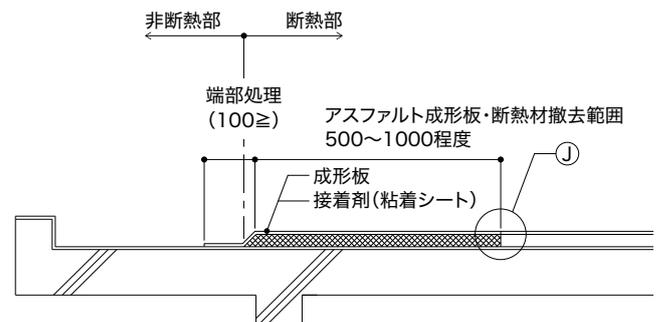
コンクリートブロック工法

コンクリートブロック工法の場合、防水施工範囲に隣接する縁石とコンクリートブロック2枚程度、断熱材、ジョイナー、固定金物等を取外し移動する。取外した縁石、コンクリートブロック等は屋上に仮置き保管し、損傷がない場合、再利用する。ただし、縁石下の保護シート及びレベラー材は撤去する。



アスファルト成形板工法

アスファルト成形板工法の場合、防水施工範囲に隣接する0.5mか1.0m程度の範囲のアスファルト成形板と断熱材を撤去する。除去できない断熱材・接着剤はバーナー等で溶解し平滑にする。役物周囲等の施工範囲は特記によるほか、監督員の指示による。



2章 3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.2

アスファルト防水常温工法(非断熱部)

適用範囲

本項は、屋根外断熱防水工法における非断熱部の防水修繕に適用する。

材料

材料は、「仕様登録集」によるほか、次による。

- イ プライマーは、ブローンアスファルト又は改質アスファルトを主成分とした速乾性のもの(以下「速乾性プライマー」という)で、改質アスファルトシー
トの接着に適するものとし、比重、加熱残分は製造所の仕様による。なお、使用前に組成に変化を生じたものは、使用してはならない。
- ロ アスファルト活性剤の加熱残分は65%以上とする。
- ハ 常温工法用アスファルトコンパウンドは、製造所の仕様による。
- ニ 改質アスファルトルーフィングは、JIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)に規定する単層用とし、厚さは、2.3.2表による。
なお、露出防水に使用する場合は砂付き(以下「砂付ルーフィング」という。)とする。
- ホ 増張り材は、改質アスファルトルーフィングとなじみの良いシート状又はテープ状のもので、製造所の仕様による。
- ヘ 防水層端部の止水に用いるシール材はアスファルト防水工事用シール材とし、製造所の仕様による。(製造所推奨品:GCライン)。
- ト 仕上塗料は、製造所の仕様による。
- チ 防水押え金物の材質はアルミニウム製とし、形状及び寸法は特記による。
- リ ナイロンプラグは軽量アンカー用ナイロンプラグとし、ステンレスビスで固定する。なお、寸法は特記による。

ニ 2.3.2表 改質アスファルトルーフィングの厚さ

用途による区分	厚さ	対応製品
露出防水用	3.0mm以上	ガムクールキャップEX
	4.0mm以上(トーチバーナーを用いて施工するルーフィングの場合)	ポリマリットフェース
非露出防水用	2.5mm以上	-
	3.5mm以上(トーチバーナーを用いて施工するルーフィングの場合)	ポリマリット35

2章 3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.2

アスファルト防水常温工法(非断熱部)

工程

2.3.3 表 非断熱部の工程

工程	材料	使用量/m ²	種別	対応製品	使用量/m ²
1	速乾性アスファルトプライマー (注)1・3	0.2kg	撤去方式	アスファルトプライマー-SS	0.2kg
2	アスファルト活性化剤 (注)2	1.2kg(1.0kg) (注)2	かぶせ方式	リベース	1.2kg
3	改質アスファルトルーフィング	-	-	ポリマリットフェース (ガムクールキャップEX)※	-
4	仕上塗料	製造所の仕様による	-	SPファインカラー	0.4～0.6kg

※ 工程3で火気使用が出来ない場合は(ガムクールキャップEX)を用いる。

(注)1. 既存防水を撤去した箇所は、工程1の速乾性アスファルトプライマーを塗布する。

(注)2. 「かぶせ方式」による場合、工程1は省略する。なお、既存防水層がアスファルト防水常温工法の場合、工程2の使用量は()に示す。

(注)3. 非断熱部で既存塗膜防水層がある場合は、工程1を層間プライマーとし、品質及び使用量は「仕様登録集」による。

2.3.4 表 非断熱部と隣接する断熱部の工程

工程	材料	使用量/m ²	種別	対応製品	使用量/m ²
1	速乾性アスファルトプライマー (注)1・3	0.2kg	撤去方式	アスファルトプライマー-SS	0.2kg
2	アスファルト活性化剤 (注)2	1.2kg(1.0kg) (注)2	かぶせ方式	リベース	1.2kg
3	改質アスファルトルーフィング	-	-	ガムクールキャップEX	-

(注)1. 既存防水層を撤去した箇所は、工程1による。

(注)2. 「かぶせ方式」による場合、工程1は省略する。なお、既存防水層がアスファルト防水常温工法の場合、工程2の使用量は()に示す。

(注)3. 非断熱部で既存塗膜防水層がある場合は、工程1を層間プライマーとし、品質及び使用量は「仕様登録集」による。

防水工法

表-2 成形板表面補強部の工程 詳細は「仕様登録集」→ 337～338ページ

既存成形板工法の断熱部「成形板保護押え表面」の補強が必要な場合は特記により、工程は表-2による。

工程	品名(製品名)	使用量/m ²	工法名
1	リベース	1.2kg	はけ塗り
2	ガムクールキャップEX	-	ローラーで押えて密着させる
3	SPファインカラー(A-101)	0.3kg	ローラー または はけ塗り

2章 3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.4

アスファルト成形板工法

適用範囲

本項は、屋根外断熱防水工法におけるアスファルト成形板の部分修繕に適用する。

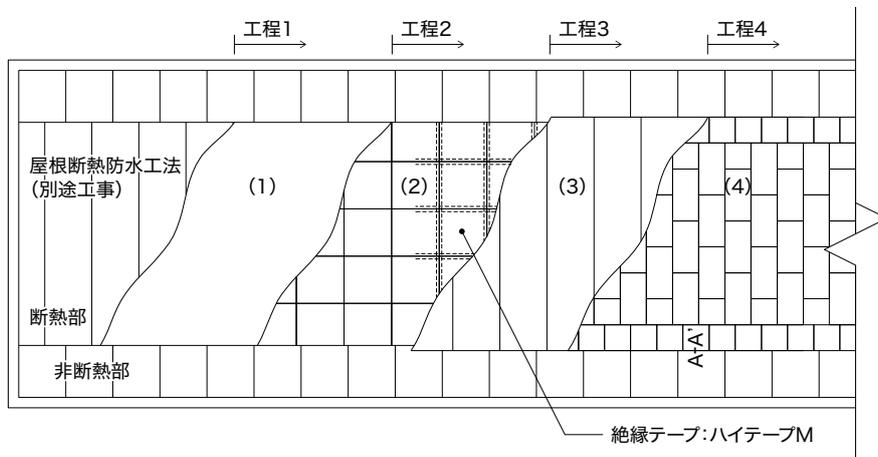
材料

材料は、「仕様登録集」による。

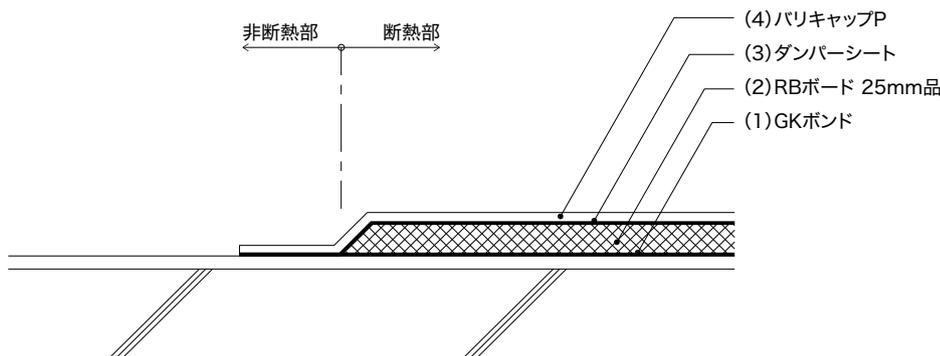
アスファルト成形板工法 断熱工法(断熱部)の工程

工程	用途	対応製品	使用量/m ²	対応製品
1	接着剤	GKボンド	1.0kg	2成分タイプウレタン系反応硬化型接着剤
2	断熱材	RBボード25mm品	-	A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b(スキンあり)25mm
3	定型接着剤	ダンパーシート	-	断熱材及び成型板を張り付ける為の接着用ルーフィング
4	成形板	バリキャップP	-	表面にカラー碎石等を接着したアスファルトマスチック系保護用成形板
5	端末処理	強力ガムシール	-	特殊改質アスファルト系防水端末処理材

※ 在来工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法、もしくはPC・HPC工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法の防水層の上へ行う。



標準割付け図(A-A')



2章 3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.4

アスファルト成形板工法

施工要領 詳細は「仕様登録集」→ 360～362ページ

(1) 下地処理(別途工事)

在来工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法、もしくは、PC・HPC工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法の防水層の上へ行う。

(2) 断熱工事

①断熱材位置の墨出し

断熱材の張仕舞位置に墨を出す。この時RBボードの割付けも考慮する。

②GKボンドの攪拌

主剤1：硬化剤4を容器に計量し、混合攪拌する。(約3分以上)

(注)混合した材料は約1時間位から硬化が始まるため注意する。特に夏場は気温が高いため、更に硬化が速くなる。

③GKボンドの塗布

混合攪拌したGKボンドを専用くしはけを用いて、防水層の上に塗布する。(塗布量：1.0kg/m²)

④RBボードの張り付け

GKボンド塗布後、直ちにRBボードを張り付け、圧着する。

不陸部分はRBの表裏にカッターを入れ、下地に良く馴染むように圧着する。(納まりが悪い部分は重石を置く)

⑤ダンパーシートの張り付け

断熱材上にダンパーシート裏面の剥離紙を剥がしながらラップ幅100mmとって張り付け、ローラー等で転圧する。

非断熱部防水層上は、強力ガムシールを塗布した上にダンパーシートを張り付ける。

⑥バリキャップPの張り付け

割付け図に従って、ダンパーシート上面の剥離紙を取り除き、ゴム・アス層にバリキャップPを張り付ける。

バリキャップPは千鳥張りを標準とする(他の割付けを採用する場合は、監督員の承認を得る事)。

役物廻り等バリキャップPを切断する場合はカッターで行い、その取合いに隙間が生じた場合は強力ガムシールを充填し、彩色砂等で表面仕上げをする。

⑦端部処理

イ 溝部分の端部処理は、RBボードを斜めにカットして断熱部防水層にGKボンドを張り付ける。

ダンパーシートを非断熱部防水層上まで張った後、バリキャップPを図のように50cm幅方向で張り込む。

その際、バリキャップPの裏面をプロパンバーナーであぶり、ダンパーシートになじませ張り重ねる。

ロ ダンパーシートを非断熱部防水層上に接着する場合は、ガムシールを塗布し、砂付面の接着性を高めてから張り付ける。

2章 3節 屋根外断熱等部分修繕工事

対応製品紹介

<p>速乾性プライマー アスファルトプライマーSS</p>	<p>アスファルト活性化剤 リベース</p>	<p>不陸調整材(製造所推奨品) クールベース</p>
		
<p>アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理材。</p>	<p>既存防水層を活性化させるアスファルト系下地活性化剤。</p>	<p>水性ゴムアスファルト系下地調整材。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。</p>
<p>16kg/缶</p>	<p>20kg/缶</p>	<p>クールベース 8kg/缶 クールベースパウダー 16kg/袋</p>
<p>仮防水材 アスグランド/グランドパウダー</p>	<p>防湿シート ダンパーシート</p>	<p>改質アスファルトシート(トーチ工法) ポリマリットフェース</p>
		
<p>既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。</p>	<p>断熱工法に使用する防湿層兼断熱材固定用シート。 表面:全面粘着 裏面:ストライプ状粘着</p>	<p>表面が碎石砂付タイプの仕上げ用改質アスファルトシート。 JIS A 6013 露出単層防水用R種II類</p>
<p>アスグランド 9kg/缶 グランドパウダー 12kg/袋</p>	<p>1m×32m巻 厚さ:0.8mm(粘着層を含む)</p>	<p>1m×8m巻 厚さ:4.0mm</p>
<p>改質アスファルトシート(トーチ工法) ポリマリット35</p>	<p>改質アスファルトシート(自着工法) ガムクールキャップEX</p>	<p>仕上げ塗料 SPファインカラー</p>
		
<p>表面が細砂タイプの改質アスファルトシート。 JIS A 6013 露出複層防水用R種II類</p>	<p>表面が碎石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。 JIS A 6013 露出単層防水用R種II類</p>	<p>アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材料専用水性塗料。 日射反射率50%以上の高反射塗料。</p>
<p>1m×8m巻 厚さ:3.5mm</p>	<p>1m×8m巻 厚さ:3.5mm</p>	<p>18kg/缶 4色</p>

2章 3節 屋根外断熱等部分修繕工事

対応製品紹介

ゴムアスファルト系シール材

強力ガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ 20本/箱
20kg/缶、9kg/缶

変成シリコーン系シール材(製造所推奨品)

GCライン(カート/ジャンボ)

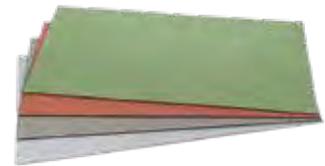


防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコーン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱
*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しません
のでご注意ください。

アスファルト成形板

バリキャップP



表面を彩色砂や自然色砂で仕上げたアスファルト成形板。
裏面の保護フィルムを剥がして施工する。
(粘着層はついていません)

500mm×1,000mm
厚さ:6mm 5.1kg/枚
色:自然色、ライトグレー、赤茶、新緑

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋根外断熱露出防水工法における防水層の修繕工事に適用する。

防水工法種別

- (1) 当該修繕の防水工法は、2.1.1表による次の工法とし、その適用は特記による。
- イ 外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)
 - ロ 外断熱露出アスファルト防水工法(非断熱部分修繕)
 - ハ 外断熱露出アスファルト防水工法(断熱部分修繕)
 - ニ 外断熱加硫ゴム系ルーフィングシート防水工法(全面修繕1回目)
- (2) (1)のロ又はハによる部分修繕の材料は、既存防水層と同材とする。

施工範囲

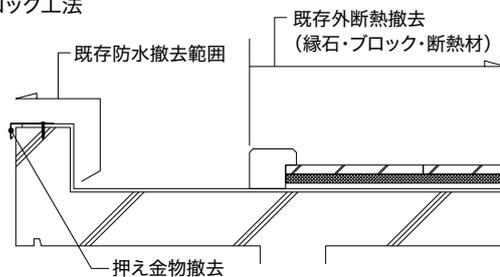
- (1) 全面修繕工事 既存防水層の断熱部及び非断熱部全面の修繕工事を行う。
 (2) 部分修繕工事 既存防水層の非断熱部又は断熱部の部分的な修繕を行う。

移動・撤去

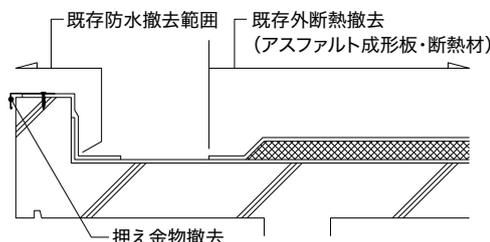
- (1) 全面修繕工事
- イ 既存コンクリートブロック及びアスファルト成形板、既存断熱材は全面撤去する。
 - ロ 既存防水層の断熱部及び非断熱部の撤去範囲は下記による。
 - ① 架台、マンホール、通気管、パラペット等の立上り防水層。ただし、2.4.5外断熱加硫ゴム系ルーフィングシート防水工法(全面修繕1回目)の場合、立上り部と周囲150mmの平場防水層。
 - ② 防水層の下に水が廻った箇所の周囲300mmの平場防水層。
 - ③ たて型ドレンの中心から周囲500mmの平場防水層。
 - ④ 横引きドレン金物端部から300mmの平場防水層。
 - ハ ドレンの上皿・ストレーナー等は撤去する。
 - ニ 既存防水の端部押え金物は撤去する。
 - ホ 通気管の切断、取替えは特記による。
 - ヘ パラペットのTVアンテナ引込架台等の取外し、再取付けは特記によるほか、監督員の指示による。
- (2) 部分修繕の撤去範囲は特記によるほか、監督員の指示による。

— 現状・撤去範囲 — 「品質判定基準」→ 82ページ

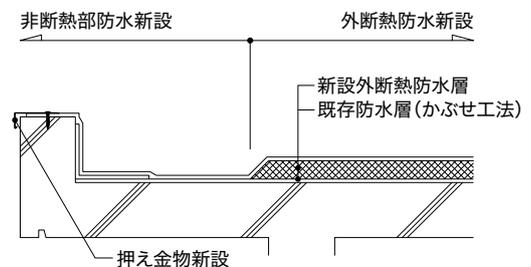
①コンクリートブロック工法



②成形板工法



— 修繕工法 — 「品質判定基準」→ 82ページ



断熱材(硬質ウレタンフォーム)の厚みは特記による

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)

適用範囲

本項は、アスファルト成形板、コンクリートブロック及びアスファルト露出防水等を施した屋根を外断熱露出アスファルト防水工法により全面修繕する工事に適用する。

下地処理

- (1) 施工範囲は、特記によるほか、監督員の指示による。
- (2) 既存断熱材を全面撤去し、既存防水層の下に水が廻っている箇所及び漏水している箇所は、既存防水層を撤去する。
- (3) 既存防水層撤去部及びかぶせ部の下地処理は次による。
 - イ かぶせ部の下地処理は、2.2.2(アスファルト防水常温工法(P型))の2(1)によるほか、断熱材を撤去した部分は全面清掃し、水気が無いように乾燥させる。なお、除去できない断熱材又は接着剤はパーナー等で溶解し平滑にする。
 - ロ 撤去部の下地は、2.2.2(アスファルト防水常温工法(P型))の2(2)によるほか、次による。
 - ① 既存平場防水層を撤去した範囲は、アスファルトプライマーを塗布した後、2.3.2の2ホの増張りを行う。なお、増張り材の張り掛け寸法は150mm以上とする。
 - ② ドレン下皿が露出するように周囲コンクリート及びモルタルを穏やかな勾配となるよう撤去し、3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等又は製造所が指定する下地調整材により補修する。
存置するドレン下皿は清掃後、防錆塗装をし、改修用ドレンを設置する。
 - ハ 架台天端を塗膜防水とする場合は、2章8節(屋上架台・庇等防水工事)による。
 - ニ アゴのある架台天端等を塗膜防水とする場合は、アゴ下端に50mm程度のアルミ水切り金物を取り付ける。
ただし、アゴの出が50mm以下又はアゴ下の高さがスラブより300mm以下の場合は次のいずれかによる。
 - ① アゴ下を3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等又は製造所が指定する下地調整材で埋める。
 - ② アゴ下端部に製造所が規定する水切りテープを設置する。
 - ホ 使用されていないことが確認された縦管の切断は、監督員の指示による。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ 新規断熱材は、「住宅部分の外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する基準及び一次エネルギー消費量に関する基準」(平成28年1月29日付国土交通省告示第266号)に基づくものとし、厚さは特記によるほか、JIS A 9521(建築用断熱材)による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号又は3種1号若しくは2号とする。
ただし、硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号の場合は、透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるものとする。
- ロ 新規断熱材取付けに使用する接着剤又は粘着剤は、製造所の仕様による。
- ハ アスファルト防水常温工法に使用するプライマーは2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の2イ、アスファルト活性剤は2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の2ロによる。
- ニ 改質アスファルトルーフィング(単層用)は、JIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)に規定する露出単層防水用とし、厚さは2.3.2表により、砂付ルーフィングとする。
- ホ 部分粘着型通気絶縁用シートは、改質アスファルトルーフィングとなじみ良く一体化し、下地挙動に対する追従効果や通気機能を有し、寸法安定性に優れたものとする。
- ヘ 増張り材、アスファルト防水工事用シール材、仕上塗料及び防水押え金物は、2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の2ホからチによるほか、製造所の仕様による。
- ト 断熱材張り継ぎ部補強用テープは、製造所の仕様によるものとし、幅50mm以上とする。
- チ 改修用ドレンは、製造所の仕様とし、周囲になじみの良い柔軟な金属製で、既存の縦型又は横型ドレンに容易に装着が出来るものとする。
また、排水口の直径は、70mmと100mmを標準とし、腐食のない金属製のストレーナーと組合わせたものとする。
- リ 水抜きシートは、製造所の仕様による。

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)

工程

2.4.1 表 断熱部(平場)既存防水層の下地処理工程

工程	材料	使用量/m ²	種別		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	不陸調整	-	○	-	クールベース	-
			-	○	リグレー・ネオ	
2	アスファルト活性化剤	1.0kg	○	-	リベース	1.0kg
3	速乾性プライマー	0.2kg	-	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
4	増張り用シート	-	-	○	ポリマリット25※	-

※ 火器(バーナー)を使用できない場合は、ポリマリットGLに変更する場合がある。

2.4.2 表 断熱部(平場)の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	接着剤(注1)	-	レイコーセメント	0.8kg
	粘着材 (部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等)	-	-	-
2	硬質ウレタンフォーム(注2)	-	ギルフォーム	-
3	断熱材張り継ぎ部補強用テープ W \geq 50mm	-	ハイテープM-50	-
4	部分粘着型通気絶縁用シート	-	ポリマリットPS	-
5	改質アスファルトルーフィング(露出単層防水用)	-	ポリマリットフェース	-
6	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注)1. 工程1の接着剤は、部分接着(点張り)又は全面接着により、種別は製造所の仕様による。

(注)2. 工程2の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2.4.3 表 断熱部及び非断熱部(立上り部)の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	速乾性プライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	増張り用シート	-	ポリマリット25※	-
3	改質アスファルトルーフィング(露出単層防水用)	-	ポリマリットフェース	-
4	アスファルト防水工事事用シール、押え金物	-	強力ガムシール(GCライン)	-
5	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

※ 火器(バーナー)を使用できない場合は、ポリマリットGLに変更する場合がある。

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)

工程

2.4.4 表 非断熱部(平場)の工程

工程	材料	使用量/m ²	種別		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	アスファルト活性化剤	1.0kg	○	-	リベース	1.0kg
	速乾性プライマー	0.2kg	-	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	増張り用シート(注1)	-	○	○	ポリマリット25※	-
3	部分粘着型通気絶縁用シート (水抜きシートを設置する場合)(注2)	-	○	○	ポリマリットPS	-
4	改修用ドレン(注3)	-	○	○	リードレンC	-
5	改質アスファルトルーフィング (露出単層防水用)(注4)	-	○	○	ポリマリットフェース	-
6	仕上塗料	製造所の仕様による	○	○	SPファインカラー	0.4～0.6kg

※ 火器(バーナー)を使用できない場合は、ポリマリットGLに変更する場合がある。

(注)1. 工程2は「かぶせ方式」の場合により、取付け範囲は2.4.2の4口①による。

(注)2. 工程3は水抜きシートを設置する場合に適用する。

(注)3. 工程4は既存ドレンに取り付ける。なお、水抜きシート等を設置する場合は特記による。

(注)4. 工程5は断熱部(平場)防水層に接続する。

施工

①増張り

架台、マンホール等の入隅部、出隅部角、通気管廻り、パラペット廻り及びドレン廻りは、アスファルト活性化剤又は速乾性プライマーを塗布した後、増張り材の増張りを行う。なお、増張り材の各部への張り掛け寸法は2.4.5表による。

2.4.5 表 増張り材張り掛け寸法

施工部位	張り掛け寸法(mm)		
	立上り部分 撤去部(注)2	平場部分	
		断熱部(既存防水)	非断熱部
架台、マンホール等の入隅部、出隅角	150以上	150以上	150以上
通気管廻り	150以上	200以上	200以上
パラペット廻り	150以上	-	200以上
ドレン廻り(注)1	縦型	-	150以上
	横引き	250以上	150以上

(注)1. ドレン廻りの撤去範囲は、2.4.1(一般事項)の5イ②c及びdによる。

(注)2. 立ち上がりの張り掛け寸法が150mmに満たない場合は、天端から20mm下がりを張り付ける。

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)

施工

②断熱部(平場)の施工

- a 断熱部の通気管等の周囲100mm程度はメンテモルタル等で根巻きし、断熱材の厚さ以上となるように成形する。
- b 断熱材の平場上面は不織布の面材付きとし、水下側端部で斜め40°以下にカットした面には、速乾性プライマーを塗布する。なお、当該部分において防水層に浮きが生じないように張り付ける。また、水下側の端部にコーナーキャント材を用いる場合は、斜め部分の表面は不織布の面材付きとし、接着剤又は粘着テープで張り付ける。
- c PC工法屋根線防水部分の段差が15mm以上あり、レベル調整を必要とする場合は、ポリエチレン製レベラー及びモルタル等を併用して、断熱材取付け面が平滑な仕上げとなるよう調整する。なお、既存線防水上部等で断熱材の厚さを変更し調整する場合は、監督員と協議する。
- d 断熱材はアスファルト系接着剤又は粘着剤等でアスファルト活性剤を塗布した既存防水層に部分接着(点付け)で張り付ける。
施工中の降雨で断熱材下に水が回ったり、接着剤等の硬化不十分により飛散することが無いよう、直ちに断熱材張り継ぎ部補強用テープを取り付けながら、部分粘着型通気絶縁用シートの下張りを連続して行う。なお、部分粘着型通気絶縁用シートは自着層で圧着とし、重ね幅は、製造所の仕様による。
- e 脱気装置の設置は特記による。設置する場合は、原則として、25㎡から100㎡に1箇所程度設置し、防水材製造所の指定するものとする。なお、設置位置は、原則として、水上とし、歩行に支障のない位置とする。

③断熱部及び非断熱部(立上等)の施工

- a 立上等部の周囲は、規定の増張りを行い、下地の動きやひび割れ等による防水層の破断を防止する。
- b 断熱材と取合いとなる個所では、必要に応じて緩衝材等を取付け、アスファルト防水工事用シール材でシール処理する。
- c パラペットの立上等外周部及び役物廻り防水の張仕舞部はアルミ金物で防水押えする。なお、金物の形状及び寸法は特記による。

④非断熱部(平場)の施工

- a 既存防水を撤去する範囲には速乾性プライマーを塗布し、「かぶせ方式」の範囲にはアスファルト活性剤を塗布する。
- b 断熱材下に水が回った場合で排水不良により滞水がおき、水ふくれ等を生じること防止するため、ドレン廻りに水抜きシートを取り付ける場合は、特記による。なお、水抜きシートの形状と取付け方法等は、製造所の仕様により、取付け箇所と範囲は監督員と協議する。
- c 水下非断熱部の桁方向の幅が狭く、排水障害が予期される場合は平場に部分粘着型通気絶縁用シートを張付けて改修用ドレン廻りの水抜きシートと連結させる。ただし、この部分粘着型通気絶縁用シートの取付けは特記又は監督員の指示による。

⑤砂付改質ルーフィングの張付け

2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の3口②によるほか、次による。

非断熱部では、排水の妨げとならないよう水下平場部の寸法に応じて桁方向に張付ける。

断熱部では、断熱部から非断熱部に150mm以上張り重ねとなるよう張間方向に割付けしてトーチバーナーで溶着又は自着層で圧着させる。ただし、砂付シートの張付けの方向は屋根の勾配や形状により変更する。

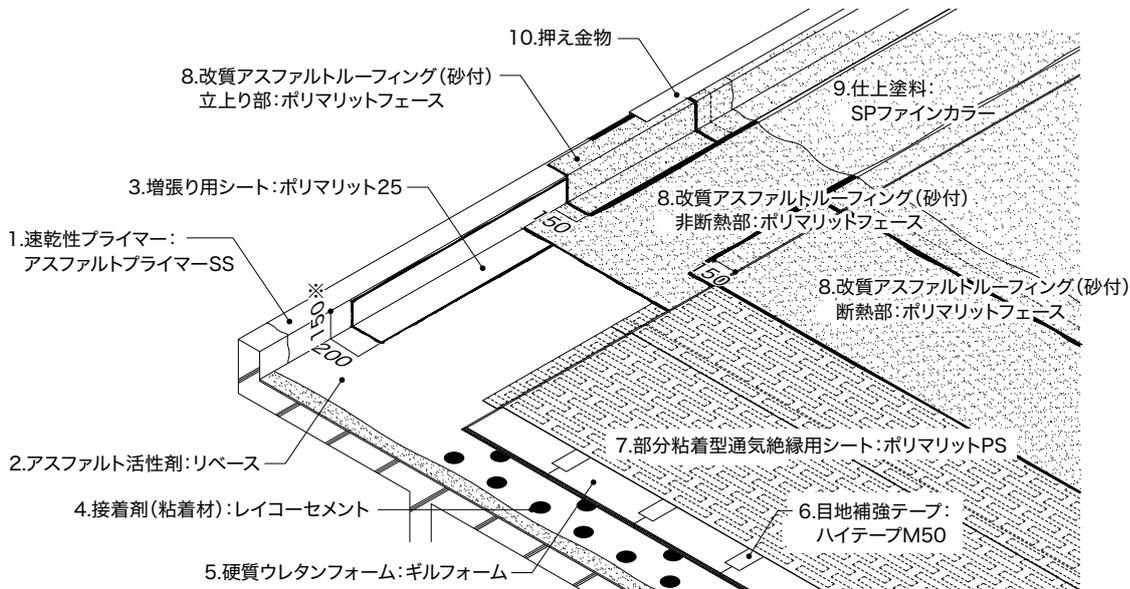
⑥全面に仕上塗料を塗布し仕上げる。

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)

標準納まり図



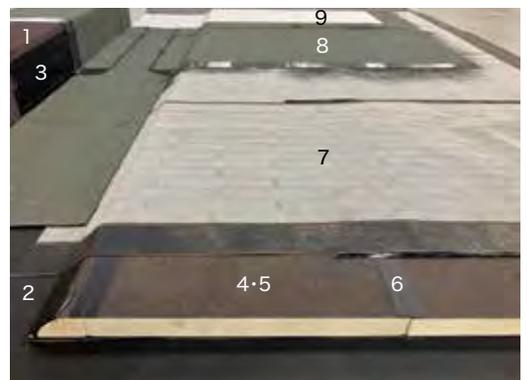
※150mmに満たない場合は、天端から20mm下がりまで張り付ける。

既存防水層へのかぶせ方式範囲(断熱部等)

工程	材料
2	アスファルト活性化剤
4	断熱材用接着剤(粘着材)
5	硬質ウレタンフォーム
6	目地補強用テープ
7	改質アスファルトルーフィング (部分粘着型通気絶縁用シート)
8	改質アスファルトルーフィング(砂付)
9	仕上塗料

既存防水層撤去範囲(立上り等)

工程	材料
1	アスファルトプライマー(撤去範囲)
3	増張り用シート
8	改質アスファルトルーフィング(砂付)
9	仕上塗料
10	押え金物



断熱材面取り



断熱部の面取りについて

断熱材の水下側の端部は斜め40°以下にカットし
上面は面材付きとする。

なお、当該部分において防水層に浮きが生じない
ように張り付ける。

また、コーナーキャント材を用いる場合は、硬質ウ
レタンフォームを斜め上側表面が面材付となるよ
う加工したカット品とし、取付けには接着剤又は
粘着テープ等を用いる。

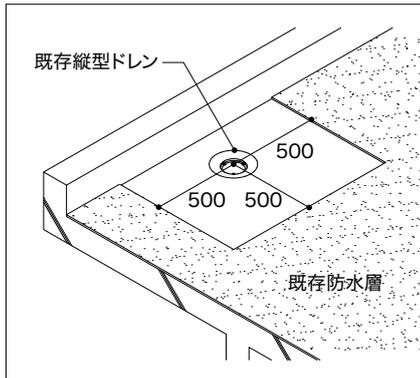
2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)

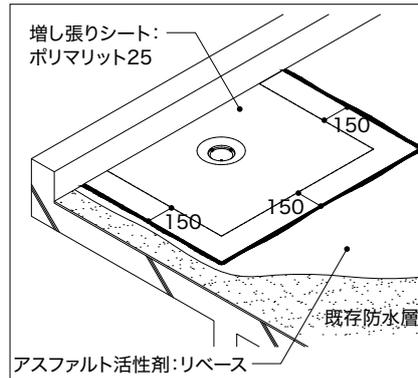
水抜きシート工程(ポリマリットPS)

1.既存防水層撤去



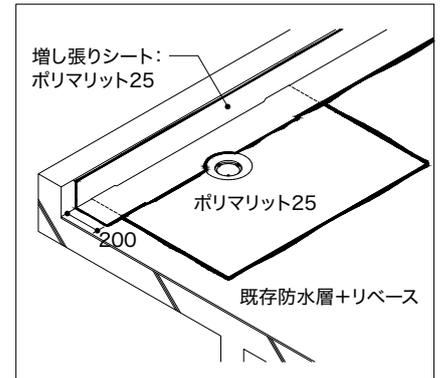
ドレン中心より周辺部500mm程度撤去

2.ドレン廻り増張り



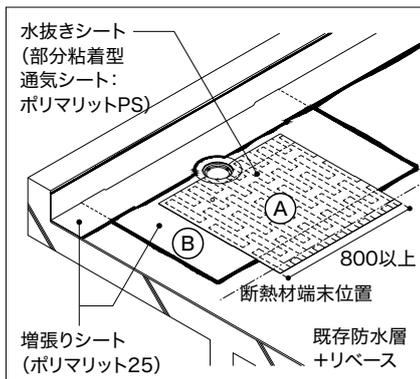
既存防水層に150mm以上張り掛ける
製品名:ポリマリット25

3.入隅部増張り



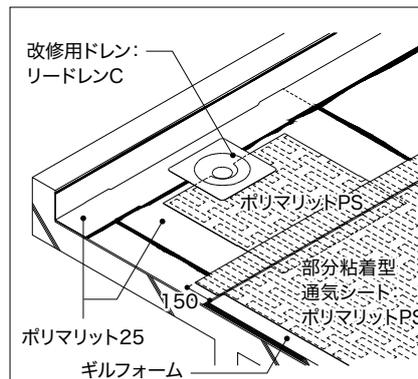
平場に200mm以上張り掛ける
製品名:ポリマリット25

4.水抜きシート張り付け



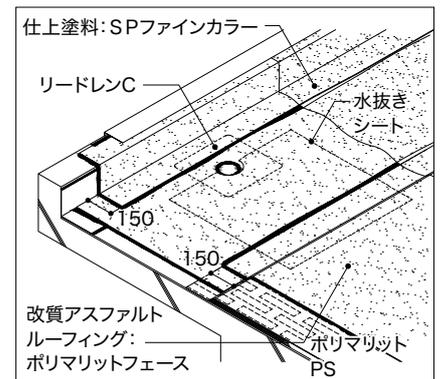
幅800mm以上ドレン中央部から断熱材下に掛かるまで張り付ける
製品名:ポリマリットPS

5.改修用ドレン設置



製品名:リードレンC
断熱材:ギルフォーム
部分粘着型通気絶縁用シート:ポリマリットPS

6.改質アスファルトルーフィング張付け(露出単層防水用)

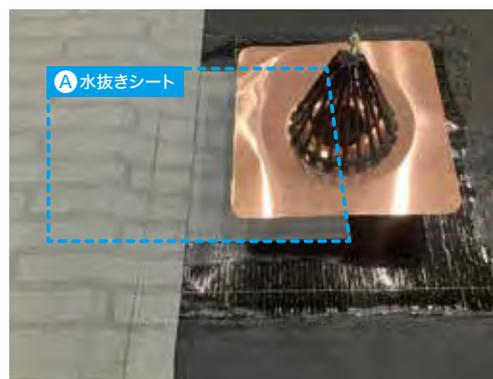


製品名:ポリマリットフェース

ドレン廻り納まり

ドレン下皿が露出するように周囲コンクリート及びモルタルを穏やかな勾配となるよう撤去し、メンテモルタルで修繕する。存置するドレン下皿は清掃後、防錆塗装をし、改修ドレンを設置する。なお、水抜きシートを設置する場合は特記による。

ドレン廻り納まり(水抜きシート ポリマリットPS)



2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.3

外断熱露出アスファルト防水工法(非断熱部分修繕)

適用範囲

本項は、既存外断熱露出アスファルト防水工法の非断熱部を部分修繕する工事に適用する。

下地処理

下地処理は、2.2.2(アスファルト防水常温工法(P型))の2による。

材料

材料は、2.2.2(アスファルト防水常温工法(P型))の3による。

工程

2.2.1 表 アスファルト防水常温工法(P型)の工程

① 絶縁帯部

工程	材料	使用量/m ²	種別※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	-	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	アスファルト活性化剤	1.2kg(1.0kg) (注)1	○	-	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	-	○	-	-
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	-	-	-
5	改質アスファルトルーフィング (注)2・3	-	○	○	ガムクールキャップEX	-
絶縁帯	絶縁帯用ルーフィング	-	-	-	ガムロンMGベースB20	-

② 一般部

工程	材料	使用量/m ²	種別※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	-	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	アスファルト活性化剤	1.2kg(1.0kg) (注)1	○	-	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	-	○	-	-
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	-	-	-
5	改質アスファルトルーフィング (注)2・3	-	○	○	ガムクールキャップEX	-

※ 既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

(注)1. 工程2の()内の数値は既存防水層がアスファルト常温工法の場合に適用する。

(注)2. 工程5に溶着型(トーチ工法)、自己接着型(自着工法)を使用する場合は、工程3及び工程4を省略する。

(注)3. 工程5に複合工法を使用する場合は、工程2を省略する。

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.4

外断熱露出アスファルト防水工法(断熱部分修繕)

適用範囲

本項は、既存外断熱露出アスファルト防水工法の断熱部を部分修繕する工事に適用する。

下地処理

詳細は「保全工事共通仕様書」→45ページ

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」及び2.4.2(外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目)によるほか、次による。

イ 新規断熱材の厚さは、既存断熱材と同じ厚さとする。

ロ 自己粘着型シートはJIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)に規定する非露出複層防水用で、厚さは1.5mm以上とし、製造所の仕様による。

工程

2.4.6 表 既存防水層(断熱材を含む)撤去部の範囲の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	接着剤(注1)	-	レイコーセメント	0.8kg
	粘着材 (部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等)	-	-	-
2	硬質ウレタンフォーム(注2)	-	ギルフォーム	-
3	断熱材張り継ぎ部補強用テープ W≧50mm	-	ハイテープM-50	-
4	部分粘着型通気絶縁用シート	-	ポリマリットPS	-
5	改質アスファルトルーフィング(露出単層防水用)	-	ポリマリットフェース	-
6	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注)1. 工程1の接着剤は、部分接着(点張り)又は全面接着により、種別は製造所の仕様による。

(注)2. 工程2の硬質ウレタンフォームの厚さは既存断熱材と同じ厚さとする。

2.4.7 表 かぶせ部の範囲の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	アスファルト活性化剤	1.0kg	リベース	1.0kg
2	改質アスファルトルーフィング(露出単層防水用)	-	ポリマリットフェース	-
3	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理材。

16kg/缶

アスファルト活性化剤

リベース



既存防水層を活性化させるアスファルト系下地活性化剤。

20kg/缶

不陸調整材(製造所推奨品)

クールベース



水性ゴムアスファルト系下地調整剤。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース 8kg/缶
クールベースパウダー 16kg/袋

仮防水材

アスグランド/グランドパウダー



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグランド 9kg/缶
グランドパウダー 12kg/袋

断熱材用接着剤

レイコーセメント



合成ゴムを含有した改質アスファルトをペーストタイプに仕上げた、断熱材ギルフォーム張付け用の接着剤。

18kg/缶

断熱材(硬質ウレタンフォーム)

ギルフォームS/W



写真はギルフォーム35S

外断熱用の硬質ウレタンフォーム。熱伝導率が極めて低い炭化水素系発泡ガスを内包した、完全ノンフロンタイプの断熱材。SとWの2サイズがある。

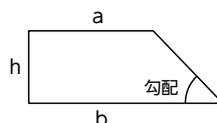
S:605mm×910mm
W:900mm×1,200mm(受注生産品)
厚さ:25、30、35、40、50、60、70、75mm
※Sの70、75mm、Wは受注生産品

断熱材(硬質ウレタンフォーム)

テーパフォームUR



側溝部やドレン廻りの断熱材面取り作業簡易化を目的とした、ギルフォームのプレカット部材。
※受注生産品



断熱材張り継ぎ部 補強用テープ

ハイテープM-50



片面粘着の改質アスファルトテープ。断熱材ジョイント部の補強に使用。

50mm×20m
24巻/箱

品名	勾配	厚さ: h(mm)	寸法(mm)			梱包数/箱
			a	b	長さ	
テーパフォームUR	50	50	50	110	910	24枚
	60	60	50	122		20枚

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

対応製品紹介

部分粘着型通気絶縁用シート(水抜きシート)

ポリマリットPS



裏面がストライプ状粘着型通気層になっている下張り用の改質アスファルトシート。
JIS A 6013 非露出複層防水用R種II類

1m×16m
厚さ:1.5mm(粘着層を含まず)

増張り用シート(トーチ工法)

ポリマリット25



2層工法に用いる下張りおよび立上り部用の改質アスファルトシート。
JIS A 6013 非露出複層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:2.5mm

増張り用シート(自着工法)

ポリマリットGL/ポリマリットGL(カット200)



裏面全面に粘着層を設けた改質アスファルトシート。JIS A 6013非露出複層防水用R種II類
カット200は片面粘着タイプのテープ。コーナー・入隅部などの増張り、ALC板短辺部の補強に使用。

ポリマリットGL 1m×8m巻
カット200 200mm×8m巻
厚さ:2.0mm

改質アスファルトシート(トーチ工法)

ポリマリットフェース



表面が碎石砂付タイプの仕上げ用改質アスファルトシート。
JIS A 6013 露出単層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:4.0mm

改質アスファルト(自着工法)

ガムクールキャップEX



表面が碎石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。
JIS A 6013 露出単層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:3.5mm

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材料専用水性塗料。
日射反射率50%以上の高反射塗料。

18kg/缶 4色

ゴムアスファルト系シール材

強カガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ
20本/箱
20kg/缶、9kg/缶

変性シリコン系シール材(製造所推奨品)

GCライン(カート/ジャンボ)



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱
*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

絶縁帯用ルーフィング

ガムロンMGベースB20



絶縁帯用にカットされた両面粘着の改質アスファルトテープ。

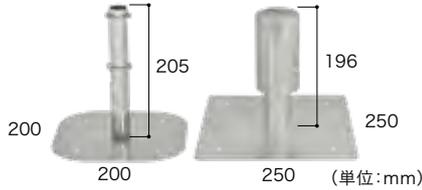
200mm×12m巻

2章 4節 屋根外断熱露出防水工事

対応製品紹介

脱気筒

ステンレスペーパスWII

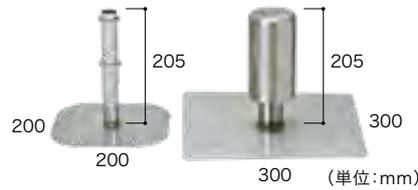


断熱工法に使用する、二重式の平面部用ステンレス製通気材。
全体の形状を小型・軽量化したコンパクト設計。
70～80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

脱気筒

ステンレスペーパスW



断熱工法に使用する、二重式のステンレス製平面部用通気部材。
70～80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

端部締結用銅線同梱

*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

脱気筒

ステンレスタイ362



ステンレスペーパスNII・WII設置に使用する防水層端部ステンレス製締結バンド

長さ:362mm

20本/袋 簡易工具同梱

水切りテープ

アゴテープ



パラペットアゴ下専用の粘着層付水切りテープ。

48mm×50m巻
厚さ:0.14mm

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.1

一般事項

適用範囲

本節は、開放使用している建物の屋上で防水層保護コンクリートを施した防水の修繕工事に適用する。

防水工法種別

(1)当該修繕の防水工法は、2.1.2表による次の工法とし、その適用は特記による。

- イ 歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目)
- ロ 歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕2回目以降)
- ハ 歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法(部分修繕)
- ニ 歩行用ポリマーセメント系塗膜防水工法(全面修繕1回目)
- ホ 歩行用ポリマーセメント系塗膜防水工法(全面修繕2回目以降)
- ヘ 歩行用ポリマーセメント系塗膜防水工法(部分修繕)
- ト 軽歩行用加硫ゴム系ルーフィングシート防水工法(全面修繕1回目)

(2)部分修繕は、既存防水層と同材を使用する。



防水層保護コンクリート(既存)



歩行用ウレタンゴム系塗膜防水((1)イ・ロ・ハ)

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.2

脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目)

適用範囲

本項は、既存防水層保護コンクリートを施した防水を歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法により全面修繕する工事に適用する。

下地処理

既存防水層保護コンクリート仕上げ等(以下「保護コンクリート等」という。)の下地補修は、次による。

なお、施工範囲は、特記よるほか、監督員の指示による。

- イ 保護コンクリート等の脆弱部分は撤去し、欠損部を3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等で補修する。なお、撤去に際しては、既存防水層に損傷を与えないようにする。
- ロ 保護コンクリート等のひび割れ及び不陸等は、3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等又は製造所が指定する下地調整材を用いて補修する。
- ハ パラペット等のモルタル浮き部分は、エポキシ樹脂注入を行うものとし、工法は3.2.3(エポキシ樹脂注入工法及び注入口付きアンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法)による。
- ニ ルーフドレン廻りのモルタル等は、はつり取り、下皿を露出した上に3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等を用いて補修する。
- ホ 保護コンクリート等の表面に付着しているじんあい及び油類等は、デッキブラシ等を用いて除去する。
- ヘ フェンス支柱等の根元は、塗料及び錆をワイヤーブラシ等を用いて除去し、ポリウレタン系シーリング材で処理する。
- ト 伸縮目地部分は、目地材を撤去清掃後、ポリエチレン等のバックアップ材を設置し、ポリウレタン系シーリング材を充填する。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ 通気緩衝シートを下地に接着するために用いる接着剤は、製造所の仕様とし、既存モルタル又は保護コンクリート等に良好に接着する製品とする。
- ロ プライマーは、製造所の仕様とし、防水層と下地とのなじみを良くし、接着力を適度に保たせる製品とする。
- ハ 通気緩衝シートは、製造所の仕様とし、塗膜防水材となじみ良く一体化し、下地挙動に対する追従効果や通気効果を有し、かつ寸法安定性に優れた製品とする。
- ニ 塗膜防水材は、JIS A 6021(建築用塗膜防水材)によるウレタンゴム系高伸長形とする。
- ホ 層間プライマーは、製造所の仕様とし、塗膜防水材と無機質系防水保護塗料との接着を良好にする製品とする。
- ヘ 無機質系防水保護塗料は、製造所の仕様とし、塗膜防水材を大気中の紫外線、オゾン等から保護するとともに、外部の衝撃から塗膜防水層を保護する硬質の仕上材とする。
- ト 補強布は、製造所の仕様とし、塗膜防水材となじみ良く一体化して補強効果を有し、寸法安定性に優れた製品とする。
- チ シーリング材は、JIS A 5758(建築用シーリング材)によるものとし、特記なき限り、2成分形ポリウレタン系シーリング材とする。
- リ 脱気装置は、製造所の仕様とし、素材は、腐食のない強固なものとする。
- ヌ 改修用ドレンは、製造所の仕様による。

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.2

脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目)

工程

2.5.1 表 脱気絶縁部(平場部)の工程

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	接着剤	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg
	プライマー(注)1	0.15kg						
2	通気緩衝シート(注)1、2、3	-	オルタックシートWS	-	オルタックシートWS	-	オルタックシートWS	-
3	ウレタンゴム系 塗膜防水材(注)4	1.5kg	オルタックエース	1.8kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	2.0kg
4		1.5kg		1.8kg		1.8kg		1.9kg
5	層間プライマー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg
6	無機質系防水保護塗料 (注)5	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程1のプライマーは、工程2に自己接着型の通気緩衝シートを使用する場合に用いる。

(注)2. 工程2の通気緩衝シートは、ポリマー改質アスファルトシート又はゴムシートとし、合成繊維不織布を使用する場合は、ウレタンゴム系塗膜防水材の塗布量を4.5kgとし、塗膜防水材の塗布工程を3工程に分けて塗布する。

(注)3. 工程2の通気緩衝シートは、脱気機能を有するものとする。

(注)4. 工程3、4のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)5. 工程6の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.2 表 庇、架台天端及び立上り部等の工程

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用)(注)1	0.5kg	立上り用 オルタックエース	0.5kg	オルタックサンキュアT	0.5kg	オルタックサンキュアT	0.5kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	-	メッシュUB	-	メッシュUB	-
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用)(注)1	1.0kg	立上り用 オルタックエース	1.4kg	オルタックサンキュアT	1.4kg	オルタックサンキュアT	1.4kg
5		1.0kg		1.4kg		1.4kg		1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg
7	無機質系防水保護塗料 (注)2	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

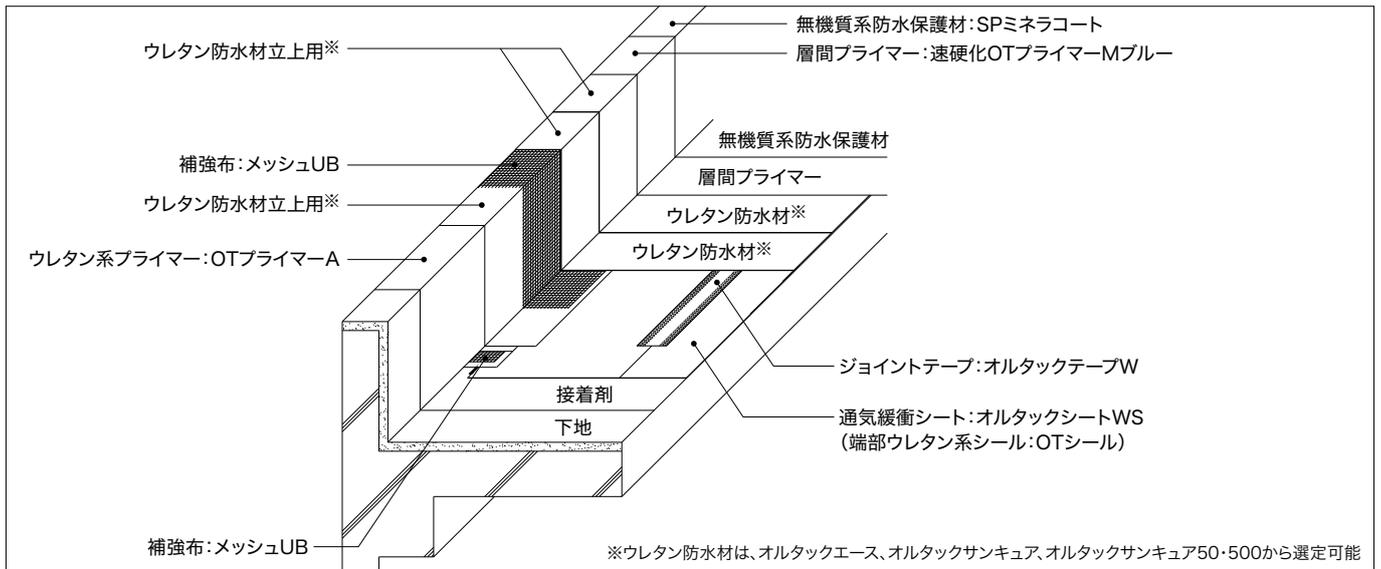
2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.2

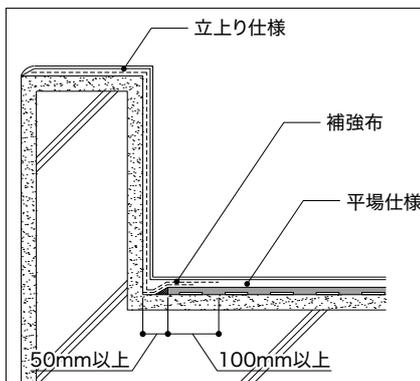
脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目)

標準納まり図

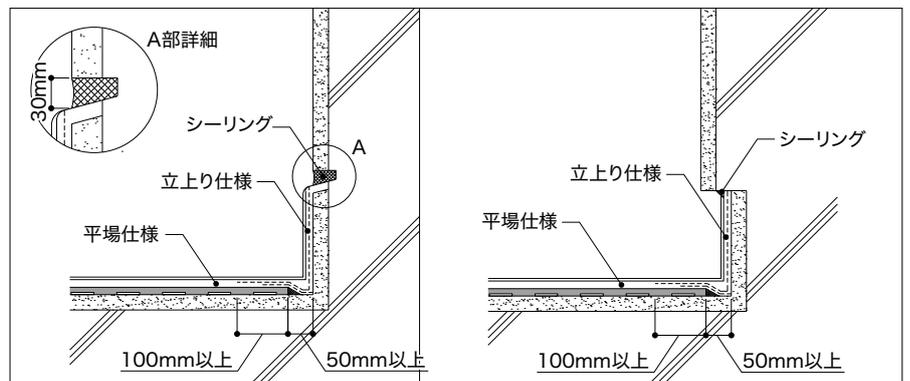
1.全体図



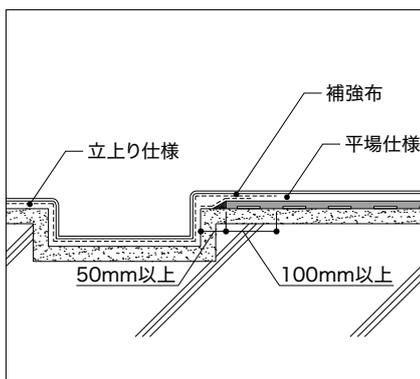
2.バラベツ



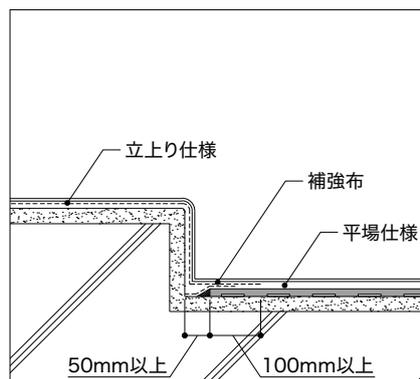
3.壁面立上り



4.側溝部



5.架台まわり



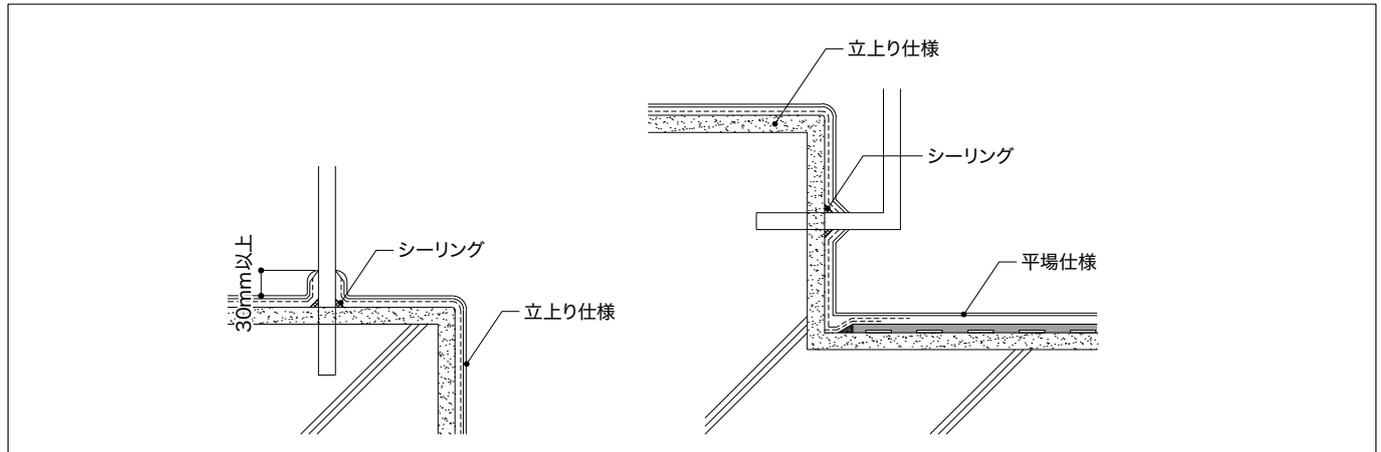
2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.2

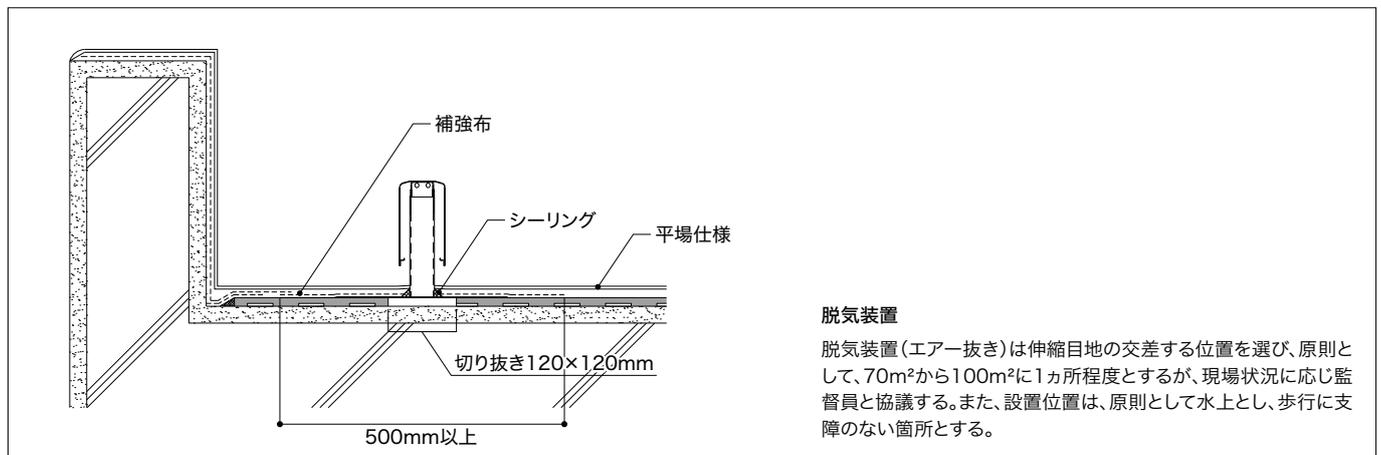
脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目)

標準納まり図

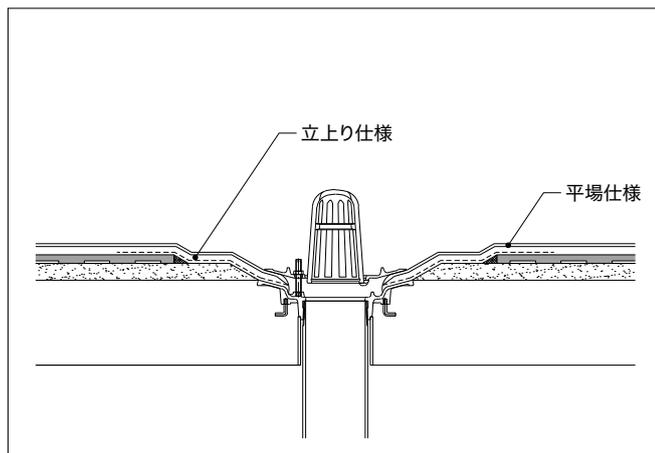
6.手すり等支柱まわり



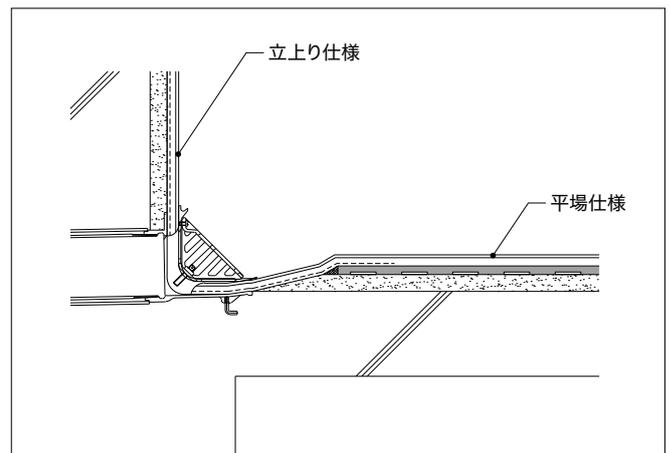
7.脱気筒取り付け



8.たて型ドレン



9.横型ドレン



2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.3

脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降)

適用範囲

本項は、既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を全面修繕する工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様とする。ただし、既存防水層の劣化が著しく、当該工法に支障がある場合には既存防水層を撤去のうえ、2.5.2(脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目))を適用する。

下地調査 詳細は「保全工事共通仕様書」→ 53ページ

- ・既存塗膜の確認試験
各棟3箇所以上密着部の付着試験を行い、付着強度が0.5N/mm²以上であることを確認する。
- ・既存塗膜と改修用塗膜防水材プライマーの付着試験等
イ 既存塗膜と改修用塗膜防水材プライマーの付着試験は、JIS K 5600-5-6 塗料の一般試験方法 — 第5部:塗膜の機械的性質 — 第6節:付着性(クロスカット法)によるクロスカット法により、各棟3箇所以上行い、評価分類が0であることを確認する。
ロ プライマーは、既存塗膜との付着、防水性能及び剥落に支障が無いことを製造所の試験データ等で確認する。

下地処理

- (1) 既存防水層部のひび割れは、1.0mm未満で周辺部が十分付着している場合、ポリウレタン系シーリング材等を充填し平滑に仕上げる。
- (2) 既存塗膜の膨れ、浮き、はがれは、カッター等で周辺の脆弱部も含め切除し、下地を十分に乾燥させ、段差に3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメソモルタル等又は塗膜防水材等を充填し平滑に仕上げる。
- (3) ほこり、油脂等を除去清掃後、十分に乾燥させる。また、既存防水層部の表面に起きたチョーキングは、ブラシ清掃し除去する。
- (4) 既存シーリング材が劣化している場合は、すべて除去し、新たにシーリング処理を行う。
- (5) 既存のルーフトレンは上皿、ストレーナーを清掃し、再設置する。再利用不可の場合は撤去し、改修用ドレンを設置する。
- (6) 既存脱気装置は清掃し、再設置する。再利用不可の場合は撤去し、新設する。

ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、2.5.2(脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタン系全面修繕1回目))の3口及びニからチによる。また、プライマーは製造所の仕様とし、既存塗膜防水材及び改修用塗膜防水材に対して付着性の良い製品とする。

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.3

脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降)

工程

2.5.3 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程(平場)

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1,2	0.3kg	オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアR	0.4kg	オルタックサンキュア 50・500	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	-	メッシュUB	-	メッシュUB	-
4	ウレタンゴム系 塗膜防水材(注)1,2	1.5kg	オルタックエース	1.8kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	1.8kg
5		1.2kg		1.4kg		1.4kg		1.7kg
6	層間プライマー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

(注)3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.4 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程(庇・架台天端及び立上り部等)

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用)(注)1,2	0.3kg	立上り用 オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	-	メッシュUB	-	メッシュUB	-
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用)(注)1,2	0.9kg	立上り用 オルタックエース	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg
5		0.8kg		1.0kg		1.0kg		1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

(注)3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.4

脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系部分修繕)

適用範囲

本項は、既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を部分修繕する工事に適用する。

下地処理

- (1) 下地処理は、2.5.3(脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降))の4による。
- (2) 既存防水層の劣化が著しく、広範囲に及ぶ場合には当該部分を撤去し、2.5.2(脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタン系全面修繕1回目))を適用する。なお、当該部分と既存絶縁シートの継目部分はテープ処理を行い、継目部分の通気に支障がないように施工する。
- (3) 脱気装置の有無は特記による。

材料

材料は、2.5.3(脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降))の5(1)による。

工程

2.5.3 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程(平場)

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1,2	0.3kg	オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアR	0.4kg	オルタックサンキュア 50・500	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	-	メッシュUB	-	メッシュUB	-
4	ウレタンゴム系 塗膜防水材(注)1,2	1.5kg	オルタックエース	1.8kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	1.8kg
5		1.2kg		1.4kg		1.4kg		1.7kg
6	層間プライマー	0.1kg	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合には、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

(注)3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

保全工事共通仕様書 2.5.4

脱気絶縁複合防水(歩行用ウレタンゴム系部分修繕)

工程

2.5.4 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程(庇・架台天端及び立上り部等)

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.3kg	立上り用 オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	-	メッシュUB	-	メッシュUB	-
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.9kg	立上り用 オルタックエース	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg
5		0.8kg		1.0kg		1.0kg		1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg	SPミネラコート	1.0kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

(注)3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

対応製品紹介

<p>プライマー(コンクリート、モルタル下地用)</p> <p>OTプライマーA</p>	<p>プライマー(既存ウレタン防水用)</p> <p>速硬化OTプライマーMブルー</p>	<p>通気緩衝シート</p> <p>オルタックシートWS</p>
 <p>コンクリート、モルタル下地用。 四季を問わず通年で使用できる1液型のウレタン系プライマー。</p>	 <p>塗布した部分が識別しやすい青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用仲介プライマー。</p>	 <p>裏面はゴムアスによるストライプ状粘着層、シート表面にはウレタン防水材と接着性がよい特殊プラスチックフィルム層を設けた通気緩衝シート。</p>
<p>16kg/缶</p>	<p>8kg/缶</p>	<p>1m×10m巻 厚さ:1.3mm(ストライプ粘着層を含まず) ※受注生産品</p>
<p>通気緩衝シート用 ジョイントテープ</p> <p>オルタックテープW フィルムタイプ</p>	<p>通気緩衝シート</p> <p>オルタックシートGS</p>	<p>目地張り用テープ</p> <p>テープGS</p>
		
<p>オルタックシートWSに使用する、フィルムタイプの粘着層付ジョイントテープ。</p>	<p>複合防水の下貼り用通気緩衝シート。軽量で寸法安定性が高く、裏面はゴムアスのストライプ状粘着層。 下地追従性に優れ、水分の拡散効果を発揮。</p>	<p>オルタックシートGSに使用する、フィルムタイプの粘着層付ジョイントテープ。</p>
<p>97mm×50m巻 厚さ:0.14mm ※受注生産品</p>	<p>1m×20m巻 厚さ:1.0mm(ストライプ粘着層を含む) ※監督員の承諾が必要</p>	<p>80mm×80m巻 ※監督員の承諾が必要</p>
<p>補強布</p> <p>メッシュUB/メッシュUBソフト</p>	<p>ウレタンゴム系塗膜防水材</p> <p>オルタックエース</p>	<p>ウレタンゴム系塗膜防水材(立上り用)</p> <p>立上り用オルタックエース</p>
		
<p>密着工法用補強材。 メッシュUBはガラス繊維を用いた強靱な補強布。 メッシュUBソフトは柔軟性のあるポリエステルを用いた補強布。</p>	<p>主剤と硬化剤の混合比率が1:1の屋上用ウレタン防水材。鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立。 JIS A 6021</p>	<p>立上り用ウレタン防水材。チクソ性が高いためダレにくく、鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立。 JIS A 6021</p>
<p>メッシュUB 1,040mm×100m巻 メッシュUBソフト* 1,020mm×50m巻 *監督員の承諾が必要</p>	<p>32kg/セット(主剤:16kg、硬化剤:16kg) 配合比 1:1 硬化物比重 1.2</p>	<p>24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg) 配合比 1:2 硬化物比重 1.3</p>

2章 5節 脱気絶縁複合防水工事(歩行用・軽歩行用)

対応製品紹介

ウレタンゴム系塗膜防水材(速硬化型)

オルタックサンキュアR



新触媒により可使用時間をのばした速硬化ウレタン防水材。
JIS A 6021

32kg/セット(主剤:16kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:1 硬化物比重 1.2

ウレタンゴム系塗膜防水材(速硬化型 立上り用)

オルタックサンキュアT



可使用時間をのばした立上り用の速硬化ウレタン防水材。
JIS A 6021

24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2 硬化物比重 1.3
※6kgセットあり(受注生産品)

ウレタンゴム系塗膜防水材(速硬化型機械圧送用)

オルタックサンキュア500/50



OSS(オルタックサプライシステム:自動混合・圧送システム)用のウレタン防水材。
JIS A 6021

500 450kg/セット
(主剤:172kg、硬化剤:278kg)
50 31kg/セット(主剤:12kg、硬化剤:19kg)
硬化物比重 1.3 ※500、50共に受注生産品

水切りテープ

アゴテープ



パラペットアゴ下専用の粘着層付水切りテープ。

48mm×50m巻
厚さ:0.14mm

無機質系防水保護塗料

SPミネラコート



歩行仕上げ用の珪砂入り水性保護塗料。
防水層上にハードな被膜を構成し、熱や紫外線、歩行などから防水層を保護する。

18kg/缶
*塗布量:1.0kg/m²以上(2回塗り以上)

脱気筒

ステンレスペーパスNII

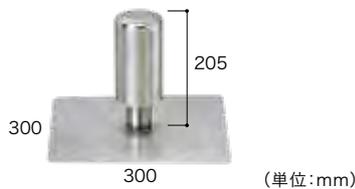


防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。
全体の形状を小型・軽量化したコンパクト設計。
70～80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

脱気筒

ステンレスペーパスN



防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気部材。
70～80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱
端部締結用銅線同梱
*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

脱気筒

ステンレスタイ362



ステンレスペーパスNII・WII設置に使用する防水層端部ステンレス製締結バンド

長さ:362mm
20本/袋 簡易工具同梱

速乾性1液ウレタン系シーリング材(製造所推奨品)

OTシール



オルタックシート端部に施工する、速乾性1液のウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

2章 6節 脱気絶縁複合防水工事(非歩行用)

保全工事共通仕様書 2.6.1

一般事項

適用範囲

本節は、非解放の建物の屋上で防水層保護コンクリートを施した防水の修繕に適用する。

防水工法種別

当該修繕の防水工法は、2.1.2表による次の工法とし、その適用は特記による。

- イ 非歩行用改質アスファルトルーフィングシート防水工法(全面修繕1回目)
- ロ 非歩行用加硫ゴム系ルーフィングシート通気接着工法(全面修繕1回目)

施工範囲

- (1) 全面修繕工事 既存防水層の断熱部及び非断熱部全面の修繕工事を行う。
- (2) 部分修繕工事 既存防水層の非断熱部又は断熱部の部分的な修繕を行う。

下地処理

保護コンクリート等の下地補修は、2.5.2(脱気絶縁複合防水工法(歩行用ウレタン系全面修繕1回目)下地処理の2イからへによるほか、次による。

なお、PC及びH-PC工法の屋根に施工する場合の下地処理は、次のハを標準とし、断熱押え部の処理は特記による。

- イ ルーフドレンには、周囲を補修の後、改修用ドレンを取り付ける。
- ロ 既存の伸縮目地(平場及び立上り共)の目地キャップは撤去する。
押えコンクリート面から浮き上がった目地材等は削り、また、雑草や著しい欠損部は除去して、撤去跡を周囲と平滑となるようアスファルト防水工事用シール材等を用いて修正する。
- ハ PC板面の下地処理
 - ① PC板面の処理に先立ち、風化、欠損、ひび割れ、撤去対象物(排水部分の既存線防水層の処理も含む)及び役物寸法(マンホール、立上り寸法)等の状況調査を行い、防水及び断熱との納まりの検討を行った上、ルーフィングの割付図を作成する。
 - ② PC板面はデッキブラシ等を用いて、泥分、ゴミ、風化物、水分等を除去清掃し、表面を十分乾燥させる。
 - ③ PC板のひび割れ部には、アスファルト防水工事用シール材等を充填し、防水処理を行う

2章 6節 脱気絶縁複合防水工事(非歩行用)

保全工事共通仕様書 2.6.2

脱気絶縁複合防水(非歩行用改質アスファルト全面修繕1回目)

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ 速乾性プライマーは、2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の2イによる。
- ロ 改質アスファルトルーフィングは、2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の材料の2ニに規定する「砂付ルーフィング」による。
- ハ 部分粘着型通気絶縁用シートは2.4.2(外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目))の3ホによる。
- ニ 既存塗膜等で下地との接着が困難な場合は、接着用層間プライマーを塗布する。
層間プライマーの品質と使用量は、製造所の仕様により、施工範囲は監督員と協議する。
- ホ 密着部に用いる目地補強用テープは、伸縮目地の挙動による変形・破断等から防水層を保護するために用いる補強張り用のシートで、自己接着型の改質アスファルトルーフィングとする。
品質は、JIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)非露出・複層用の品質に適合し、幅150mm以上のものとする。
- ヘ 増張り用シートは、改質アスファルトルーフィングとなじみの良いシート状又はテープ状のもので、製造所の仕様による。
架台等に用いる塗膜防水材は、2章8節(屋上架台・庇等防水工事)による。
- ト アスファルト防水工事用シーリング材は、製造所の仕様による。
- チ 仕上塗料は、防水層表面保護仕上材で、はけ又はローラーで塗布するのに支障がなく、防水層と十分接着し、防水層に悪影響を与えず、良好な耐候性を有したものとする。また、仕上色はシルバーを標準とし、カラー仕上又は遮熱塗料等を用いる場合は特記による。
- リ 脱気装置は、製造所の仕様とし、腐食しにくい材質の強固なものとする。
- ヌ 改修用ドレンは2.4.2(外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目))の3チによる。
- ル 防水押え金物及び固定用ナイロンプラグ類は、2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の2チ及びリによるほか、特記による。

工程

2.6.1 表 脱気絶縁部(平場)の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	部分粘着型通気絶縁用シート(注)	-	ポリマリットPS	-
3	改質アスファルト(砂付)ルーフィング	-	ポリマリットフェース	-
4	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注)工程2は脱気装置の取付けを含む。

2.6.2 表 密着部(平場及び立上り等)の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	目地補強用テープ	-	ポリマリットGL(カット200)	-
3	改質アスファルト(砂付)ルーフィング	-	ポリマリットフェース	-
4	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注)工程2は脱気装置の取付けを含む。

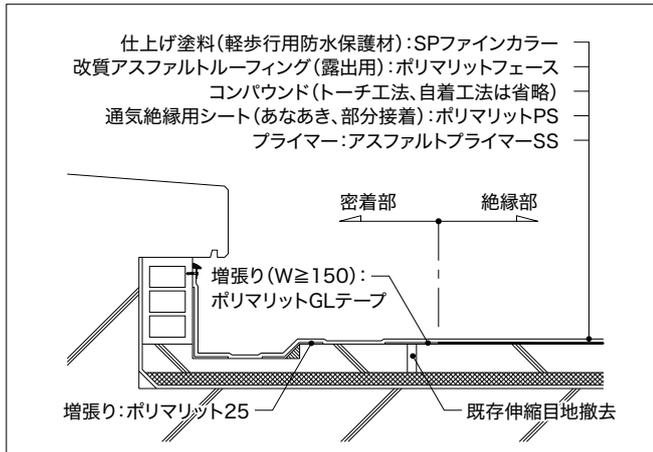
2章 6節 脱気絶縁複合防水工事(非歩行用)

保全工事共通仕様書 2.6.2

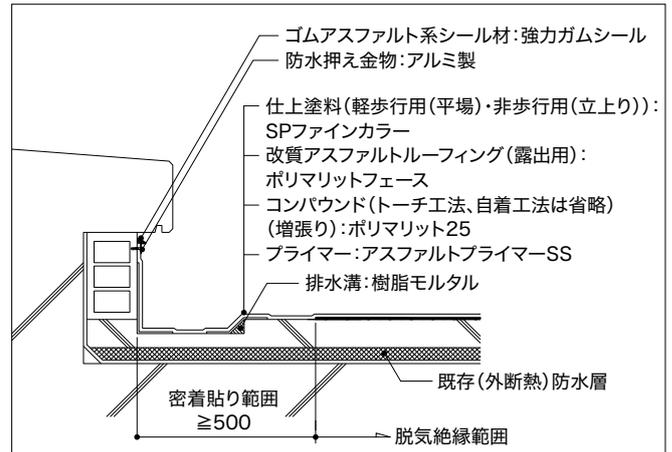
脱気絶縁複合防水(非歩行用改質アスファルト全面修繕1回目)

標準納まり図 詳細は「品質判定基準」→ 162~163ページ

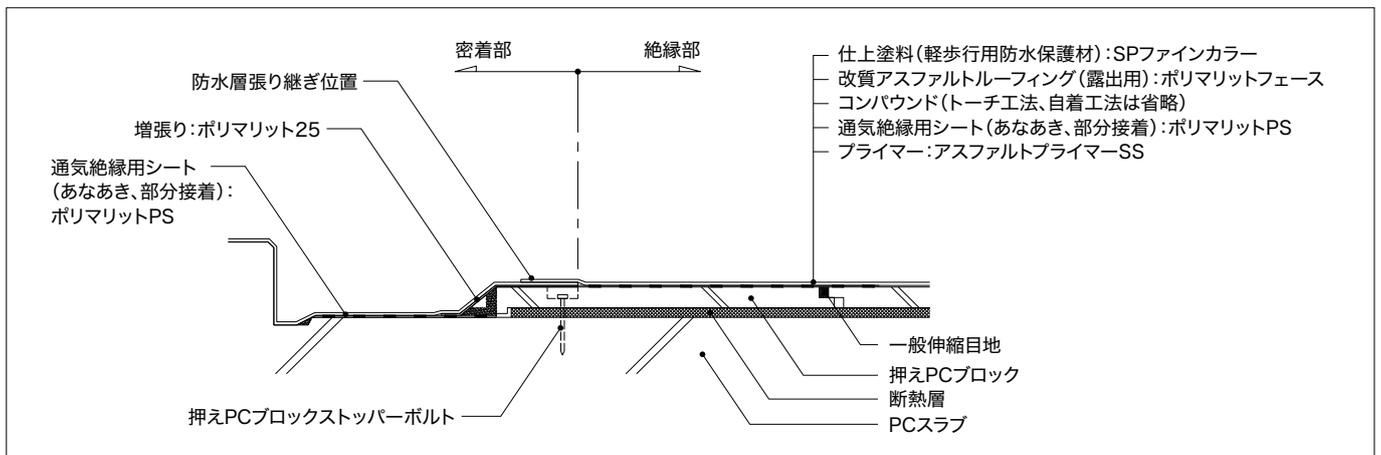
平場 ①立ち上り部及びバラベット際外周部平場(密着張り範囲)



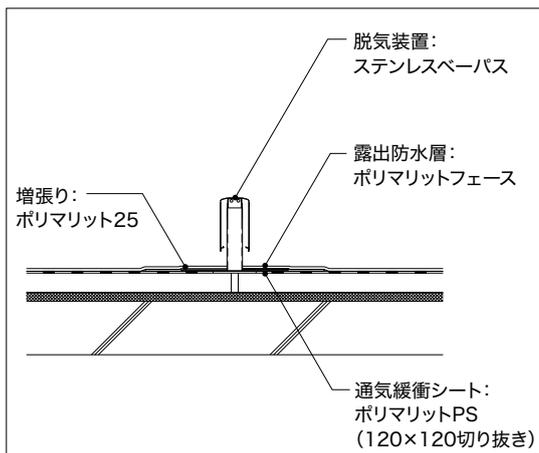
②立ち上り部及びバラベット際外周部平場(密着張り範囲)



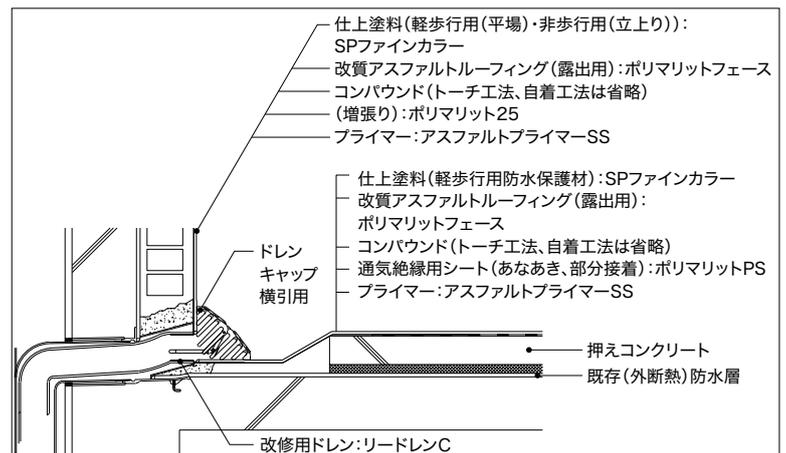
③(PC造・排気溝側)部分粘着型通気絶縁用シート工法



脱気筒廻り



横引きドレン



2章 6節 脱気絶縁複合防水工事(非歩行用)

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理材。

16kg/缶

部分粘着型通気絶縁用シート(水抜きシート)

ポリマリットPS



裏面がストライプ状粘着型通気層になっている下張り用の改質アスファルトシート。
JIS A 6013 非露出複層防水用R種II類

1m×16m
厚さ:1.5mm(粘着層を含まず)

増張り用シート(トーチ工法)

ポリマリット25



2層工法に用いる下張りおよび立上り部用の改質アスファルトシート。
JIS A 6013 非露出複層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:2.5mm

増張り用シート(自着工法)

ポリマリットGL/ポリマリットGL(カット200)



ポリマリットGL 1m×8m巻
カット200 200mm×8m巻
厚さ:2.0mm

改質アスファルトシート(トーチ工法)

ポリマリットフェース



表面が砕石砂付タイプの仕上げ用改質アスファルトシート。
JIS A 6013 露出単層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:4.0mm

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材料専用水性塗料。
日射反射率50%以上の高反射塗料。

18kg/缶 4色

ゴムアスファルト系シール材

強カガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ
20本/箱
20kg/缶、9kg/缶

変性シリコーン系シール材(製造所推奨品)

GCライン(カート/ジャンボ)



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコーン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱
*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

脱気筒

ステンレスペーパスNII



防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気部材。
70～80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

2章 7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.1

一般事項

適用範囲

本節は、バルコニー床及び共用廊下排水溝(以下「バルコニー等床」という)の防水修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系又はポリマーセメント系(無機質系)のいずれかの塗膜防水工法とする。

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目)

適用範囲

本項は、既存仕上げが防水モルタル塗りまたはコンクリート素地のバルコニー等床の防水修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系の塗膜防水工法とする。

下地処理

バルコニー等床の浮き、ひび割れ及び欠け並びにサッシ下端シーリング材取替え等の下地補修は、3.2.3(エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法)及び3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)によるほか、次による。

- イ バルコニー等床(平場部分)のひび割れが1.0mm以上の補修は3.2.2(Uカット可とう性エポキシ樹脂充填工法)による。
- ロ バルコニー等床の排水に著しく影響する不陸等は、3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等を用いて補修する。
- ハ サッシ下端のシーリング材が劣化し雨漏れのおそれがあるものは監督員と協議する。ただし、サッシ下枠に水抜き穴等がある場合はシーリング材を施工しない。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ 材料は、JIS A 6021(建築用塗膜防水材)によるウレタンゴム系高伸長形に適合する製品とし、プライマー、塗膜防水材及び仕上塗料は厚生労働省の「室内空気汚染に係るガイドライン」に室内濃度指針値が定められた化学物質を使用しないもの(以下「環境配慮型」という。)とする。
- ロ 補強布は、ウレタンゴム系高伸長形に適合する製品となじみ良く一体化して補強効果を有し、寸法安定性に優れた製品とする。
- ハ プライマーは、製造所の仕様とし、コンクリート及び防水材に対して付着性の良い製品とする。
- ニ 仕上塗料及び仕上塗料に混入する骨材は、製造所の仕様とする。
- ホ シーリング材は、JIS A 5758(建築用シーリング材)によるものとし、特記なき限り、2成分形ポリウレタン系シーリング材とする。ただし、シーリング材の表面に塗装等を施さない場合は、2成分形変成シリコーン系シーリング材又は2成分形ポリサルファイド系シーリング材とする。
- ヘ 既存排水ドレンの塗料種別は特記による。特記なき限り、ノンタールエポキシ樹脂塗料とし、製造所の仕様とする。

2章 7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目)

材料

工法は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ 出隅部は、補強布を用いて施工する。
- ロ 入隅部及びドレン廻りはよく清掃し、シーリング材を施工し、ひび割れ等がある場合は、必要に応じて補強布を併用する。
- ハ 配管類の立上り部は、シーリング材及び補強材等を併用し、巾木仕上げ高さまで施工する。
- ニ 共用廊下排水溝部はビニル床シートの押え金物はずした上で、押え金物の下端まで防水を塗布する。
- ホ PC板等ジョイント部は、補強布を併用し施工する。
- ヘ 塗継ぎの重ね幅は100mm以上とし、補強布の重ね幅は50mm以上とする。
- ト 塗り厚は、2.0mmを標準とする。
- チ 平場部(排水溝は除く)は、防滑仕上げとし、仕上塗料に混入した骨材を偏りがないよう均等に施工する。
- リ ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程は、2.7.1表による。各工程の養生時間は製造所の仕様による。

工程

2.7.1 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.15kg～ 0.25kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタックサンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア 500/50	2.6kg
3	仕上塗料 (注)2,3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注)3. 工程2の防水材及び工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目)

標準納まり図(参考図)

図1 全体図

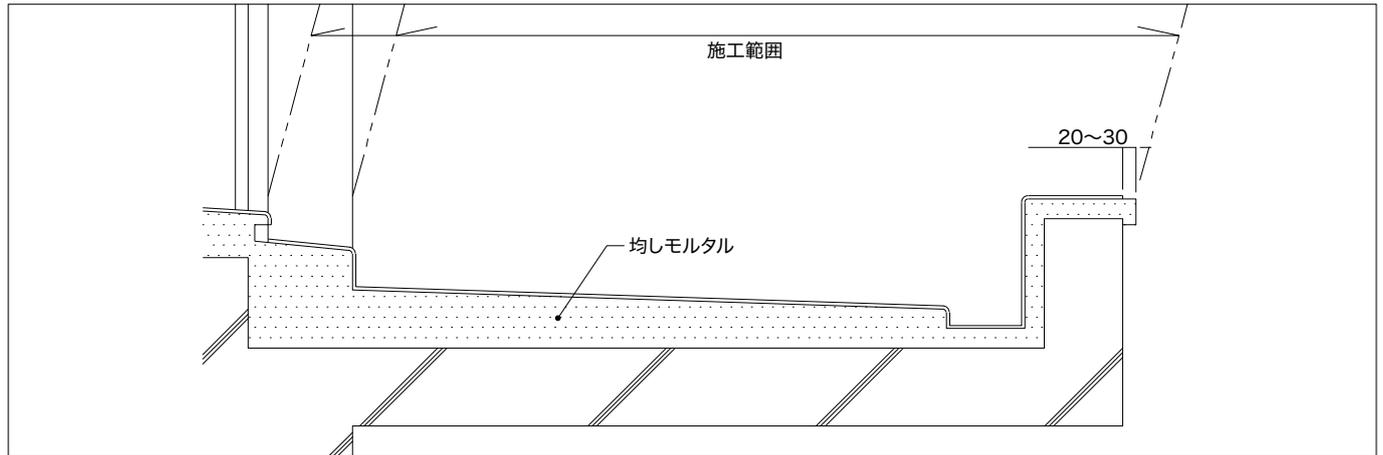


図2 壁面立上り①

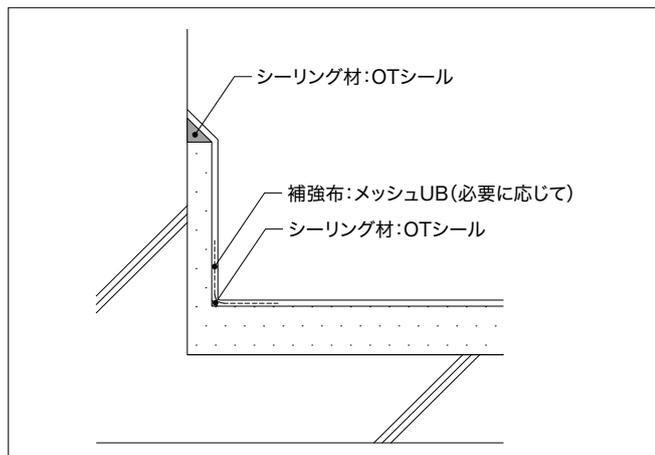


図2 壁面立上り②

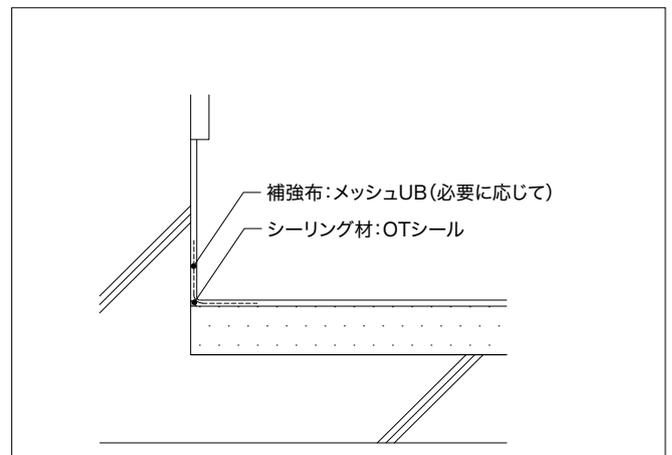


図2 壁面立上り③

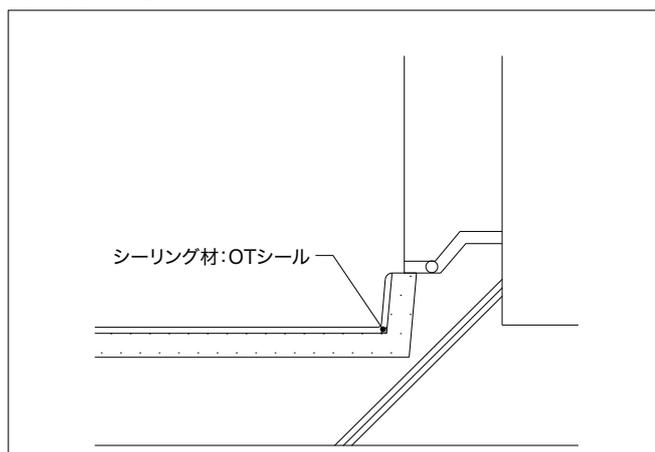
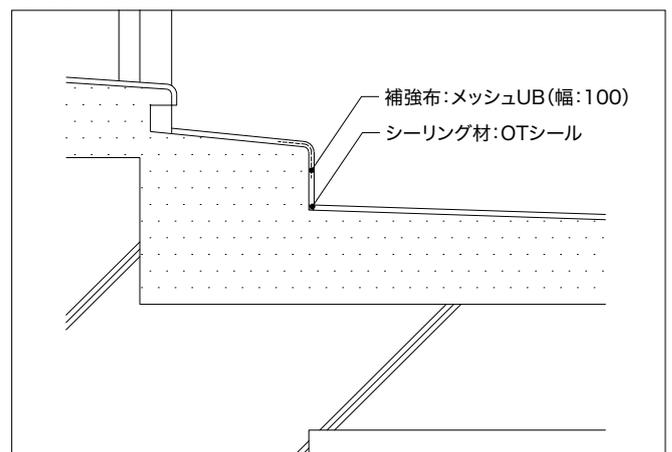


図3 出入口部敷居



2章 7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目)

標準納まり図(参考図)

図4 サッシ下枠

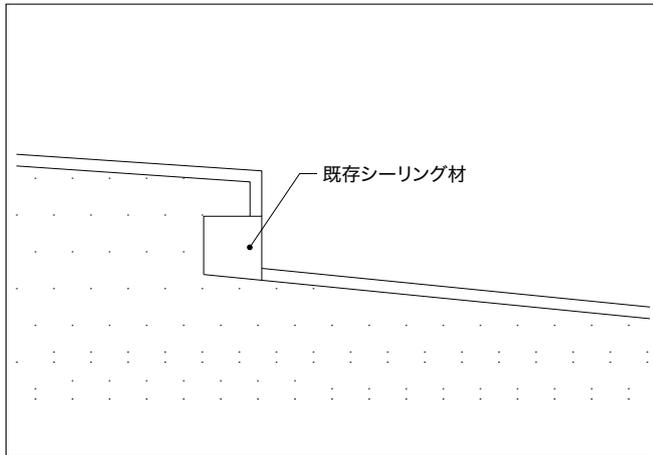
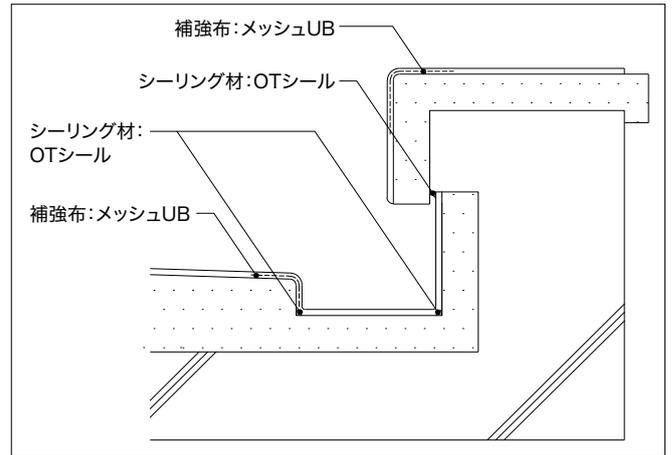
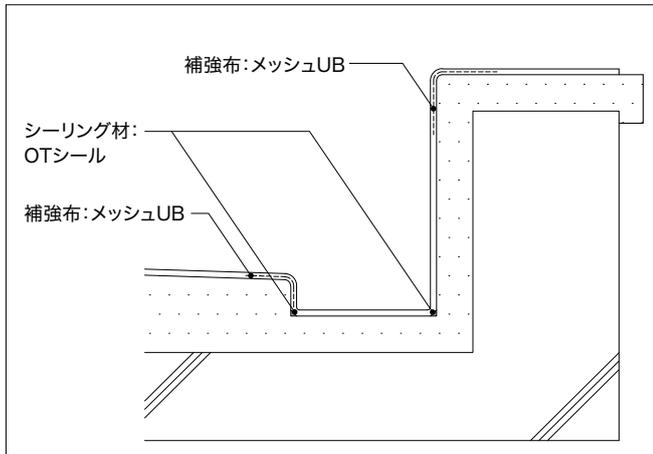


図5 立上り部天端①



※高低差が15mm以下の場合、補強布を省略する。

図5 立上り部天端②



※高低差が15mm以下の場合、補強布を省略する。

図6 ドレン廻り

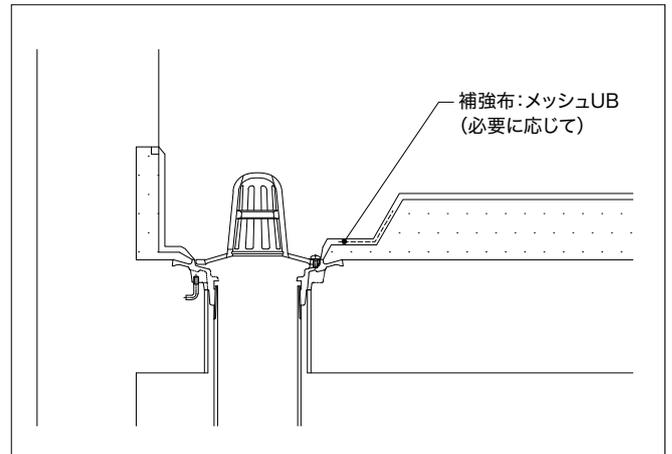


図7 管貫通部等

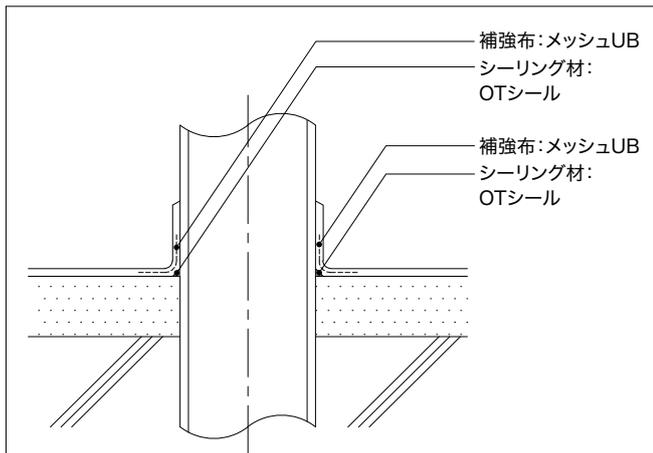
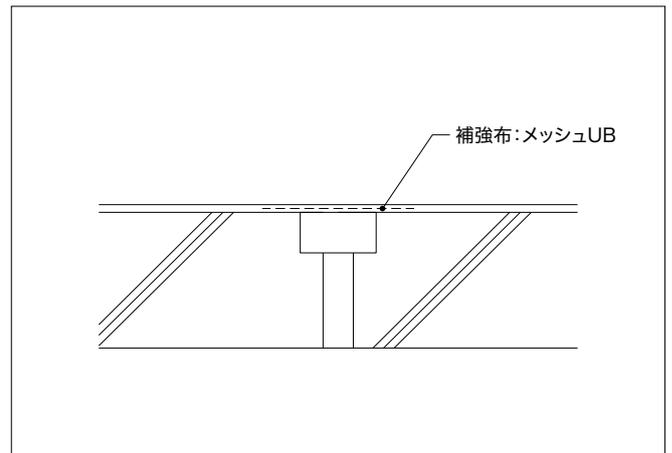


図8 PC板ジョイント部



2章 7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.3

ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕2回目以降)

適用範囲

本項は、既存仕上げに塗膜防水が施されたバルコニー等床の修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系の塗膜防水工法とする。

下地調査

バルコニー等床の塗り替えに先立ち、既存塗膜及び下地の状況を確認する。

- イ 既存塗膜及び下地の調査:バルコニー等床の塗り替えに先立ち、既存塗膜の種類、劣化状態及びその下地の調査を行う。
- ロ 既存塗膜の付着試験:格棟3箇所以上の付着試験を行い、付着強度が0.5N/mm²以上であることを確認する。
- ハ 既存塗膜と改修用塗膜防水材プライマーの付着試験:
JIS K 5600-5-6(塗料の一般試験方法-第5部:塗膜の機械的性質-第6節:付着性(クロスカット法)によるクロスカット法)により、各棟3箇所以上の付着試験を行い、評価分類が0であることを確認する。
- ニ 既存塗膜等の付着強度が所定の強度を得られない場合は、監督員と協議する。

下地処理

詳細は「[保全工事共通仕様書](#)」→ 64ページ

材料

材料は、2.7.2(ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目))の3による。ただし、プライマーは製造所の仕様とし、既存塗膜防水材及び改修用塗膜防水材に対して付着性の良い製品とする。

工法

工法は、「[機材及び工法の品質判定基準](#)」によるほか、次による。

- イ 塗り厚は、1.5mmを標準とする。
- ロ 修繕済みの出隅部、入隅部及びPC板等ジョイント部等において、補強布又はシーリングの劣化が著しい場合は、2.7.2(ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目))の4イからハ及びホにより、処理する。
- ハ 平場部(排水溝は除く)は、防滑仕上げとし、仕上塗料に混入した骨材を偏りがないよう均等に施工する。
- ニ ウレタンゴム系塗膜防水工法2回目以降の工程は、2.7.2表による。各工程の養生時間は製造所の仕様による。

工程

2.7.2 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕2回目以降の工程

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.1kg～ 0.2kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1	1.5kg	オルタックエースVR	2.1kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 500/50	2.0kg
3	仕上塗料(注)2,3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注)3. 工程2の防水材及び工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.4

ウレタンゴム系塗膜防水工法(部分修繕)

適用範囲

本項は、バルコニー等床防水の塗り残し部の修繕工事に適用する。

下地処理

下地処理は2.7.2(ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目))の2による。

材料

既存防水層の材料がウレタンゴム系であることを確認のうえ、原則として、同一系材料を使用するものとし、品質等は2.7.2(ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目))の3による。

工程

2.7.1 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.15kg～ 0.25kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタックサンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア 500/50	2.6kg
3	仕上塗料(注)2,3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注)1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合には、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注)3. 工程2の防水材及び工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 7節 バルコニー等床防水工事

対応製品紹介

プライマー(コンクリート、モルタル下地用)

OTプライマーA



コンクリート、モルタル下地用。
四季を問わず通年で使用できる1液型のウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー(既存ウレタン防水用)

速硬化OTプライマーMブルー



塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用仲介プライマー。

8kg/缶

ウレタンゴム系塗膜防水材料

オルタックエースVR



ベランダ、応用ウレタン塗膜防水材料。ダレにくく、整いやすいレベリング特性。鉛フリー配合による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立。

24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2
硬化物比重 1.3

ウレタンゴム系塗膜防水材料(立上り用)

立上り用オルタックエース



立上り用ウレタン防水材料。チクソ性が高いためダレにくく、鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立。
JIS A 6021

24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2
硬化物比重 1.3

ウレタンゴム系塗膜防水材料(速硬化型)

オルタックサンキュアR



新触媒により可使時間をのばした速硬化ウレタン防水材料。
JIS A 6021

32kg/セット(主剤:16kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:1 硬化物比重 1.2

ウレタンゴム系塗膜防水材料(速硬化型 立上り用)

オルタックサンキュアT



可使時間をのばした立上り用の速硬化ウレタン防水材料。
JIS A 6021

24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2 硬化物比重 1.3
※6kgセットあり(受注生産品)

ウレタンゴム系塗膜防水材料(速硬化型機械圧送用)

オルタックサンキュア500/50



OSS(オルタックサブライシステム:自動混合・圧送システム)用のウレタン防水材料。
JIS A 6021

500 450kg/セット
(主剤:172kg、硬化剤:278kg)
50 31kg/セット(主剤:12kg、硬化剤:19kg)
硬化物比重 1.3 ※500、50共に受注生産品

仕上げ塗料

OTコートA



2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。
新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。

14kg/セット(主剤:6kg、硬化剤:8kg)
*OTコートA タッチアップ 700gセット(標準色4色のみ)もあり

仕上げ塗料

OTコートAつやあり



2液反応型アクリルウレタン系つやあり保護塗料。
新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。

14kg/セット(主剤:6kg、硬化剤:8kg)
*OTコートAつやあり タッチアップ 700gセット(標準色4色のみ)もあり

2章 7節 バルコニー等床防水工事

対応製品紹介

仕上げ塗料

OTコート防カビ



2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。
OTコートAの施工性はそのままに、防カビ・防藻機能をプラスした新たな機能付き保護塗料。

14kg/セット(主剤:6kg、硬化剤:8kg)
※受注生産品
※監督員の承諾が必要

防滑材

Uチップ



保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。
ウレタンエラストマーを細かなチップ状に粉碎したものの。

300g/箱
(保護塗料14kgセットに対して1箱を添加)

防滑材

Mチップ



保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。
アルミノシリケート系無機質微小中空球体材。
Uチップより粗面な仕上げとなる。

420g/箱
(保護塗料14kgセットに対し1箱添加)

速乾性1液ウレタン系シーリング材(製造所推奨品)

OTシール



オルタックシート端末部に施工する、速乾性1液のウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

補強布

メッシュUB/メッシュUBソフト



密着工法用補強材。
メッシュUBはガラス繊維を用いた強靱な補強布。
メッシュUBソフトは柔軟性のあるポリエステルを用いた補強布。

メッシュUB 1,040mm×100m巻
メッシュUBソフト* 1,020mm×50m巻
*監督員の承諾が必要

2章 8節 屋上架台・庇等防水工事

保全工事共通仕様書 2.8.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋上の架台天端、庇等の修繕工事に適用する。

下地処理

- (1) 下地コンクリート又はモルタル面の付着物はスクレーパー、ワイヤブラシ等により、ケレンする。
- (2) 浮き、ひび割れ及び欠け等の下地補修は、3.2.2.(Uカット可とう性エポキシ樹脂充填工法)、3.2.3(エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法)及び3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)による。
- (3) 下地面の不陸、排水障害は、3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等又は製造所が指定する下地調整材を用いて勾配を設ける等の排水処理を行う。なお、不陸が著しい場合の処置は、監督員と協議する。
- (4) 既存塗膜防水のひび割れ、はがれ、膨れ及び浮き等の下地処理は2.7.3(ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕2回目以降))の3(2)による。
- (5) 上記以外の下地調査、下地処理及び防水の施工範囲等は特記による。

保全工事共通仕様書 2.8.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法

材料

材料は、2.7.2(ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目))の3イからニによる。
なお、仕上塗料への骨材混入の適用は特記によるほか、監督員の指示による。

工程

2.7.1 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.15kg ～ 0.25kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系 塗膜防水材(注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタックサンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア 500/50	2.6kg
3	仕上塗料(注)2、3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

(注)1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注)3. 工程2の防水材及び工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 8節 屋上架台・庇等防水工事

保全工事共通仕様書 2.8.4

改質アスファルト系塗膜防水工法

材料

材料は、「仕様登録集」によるほか、次による。

- イ 改質アスファルト系塗膜防水材は、環境配慮型とする。
- ロ プライマーは、製造所の仕様とし、下地及び防水材に対して付着性の良い製品とする。
- ハ シーリング材は、製造所の仕様による。
- ニ 既存排水ドレンの塗料種別は特記による。特記なき限り、ノンタールエポキシ樹脂塗料とし、製造所の仕様とする。

工法

工法は、「仕様登録集」によるほか、次による。

- イ プライマーを規定量均一に塗布する。
- ロ 入隅部の増張りは、製造所の仕様による。
- ハ 配管類の立上り部の補強は、製造所の仕様による。
- ニ 改質アスファルト系塗膜防水工法の工程は、2.8.1表による。各工程の養生時間は製造所の仕様による。

工程

2.8.1 表 改質アスファルト系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	プライマー	製造所の仕様による	OTプライマーA※1	0.2kg
2	増張り	-	(入隅部)※2 アスクールC 0.8kg+ マットFCII+ アスクールC 1.2kg	-
3	改質アスファルト系塗膜防水材	0.8～1.5kg (注)1	アスクールC	0.8kg
4	補強布	-	マットFCII	-
5	改質アスファルト系塗膜防水材 (注)2	製造所の仕様による (注)1	アスクールC	1.2kg ----- 0.8kg
6	仕上塗料 (注)2	製造所の仕様による	SPベース ----- SPファインカラー	0.45kg ----- 0.15～0.3kg

(注)1. 工程3、5の総使用量は、合わせて2.6～3.0kg/m²とする。

(注)2. 工程5、6の塗り回数及び使用量は、製造所の仕様による。

※1 コンクリート素地又はポリマーセメント系下地、ウレタンゴム系下地

※2 ルーフィングによる増張りの場合は、工程2に代わりポリマリットGL、ポリマリット25、ガムクールFXのいずれかとする。断熱材上は、ポリマリット25の使用を不可とする。

2章 8節 屋上架台・庇等防水工事

対応製品紹介

プライマー(コンクリート、モルタル下地用)

OTプライマーA



コンクリート、モルタル下地用。
四季を問わず通年で使用できる1液型のウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー(既存ウレタン防水用)

速硬化OTプライマーMブルー



塗布した部分が識別しやすい青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用仲介プライマー。

8kg/缶

ウレタンゴム系塗膜防水材料

オルタックエースVR



ベランダ、応用ウレタン塗膜防水材料。ダレにくく、整いやすいレベリング特性。鉛フリー配合による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立。

24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2
硬化物比重 1.3

ウレタンゴム系塗膜防水材料(立上り用)

立上り用オルタックエース



立上り用ウレタン防水材料。チクソ性が高いためダレにくく、鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立。
JIS A 6021

24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2
硬化物比重 1.3

ウレタンゴム系塗膜防水材料(速硬化型)

オルタックサンキュアR/T



新触媒により可使用時間をのびた速硬化ウレタン防水材料。
平面部にはR、立上り部にはTを使用。
JIS A 6021

R 32kg/セット(主剤:16kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:1 硬化物比重 1.2
T 24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2 硬化物比重 1.3
※6kgセットあり(受注生産品)

ウレタンゴム系塗膜防水材料(速硬化型機械圧送用)

オルタックサンキュア500/50



OSS(オルタックサプライシステム:自動混合・圧送システム)用のウレタン防水材料。
JIS A 6021

500 450kg/セット
(主剤:172kg、硬化剤:278kg)
50 31kg/セット(主剤:12kg、硬化剤:19kg)
硬化物比重 1.3 ※500、50共に受注生産品

仕上げ塗料

OTコートA/OTコートAつやあり



2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。
新配合で耐水性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。
半つやタイプとつやありタイプの2種類がある。

14kg/セット(主剤:6kg、硬化剤:8kg)
*OTコートA タッチアップ、OTコートAつやあり タッチアップ 700gセット(標準色4色のみ)もあり

速乾性1液ウレタン系シーリング材(製造所推奨品)

OTシール



オルタックシート端末部に施工する、速乾性1液のウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

補強布

メッシュUB/メッシュUBソフト



密着工法用補強材。
メッシュUBはガラス繊維を用いた強靱な補強布。
メッシュUBソフトは柔軟性のあるポリエステルを用いた補強布。

メッシュUB 1,040mm×100m巻
メッシュUBソフト* 1,020mm×50m巻
*監督員の承諾が必要

2章 8節 屋上架台・庇等防水工事

対応製品紹介

プライマー(コンクリート、モルタル下地用)

OTプライマーA



コンクリート、モルタル下地用。
四季を問わず通年で使用できる1液型のウレタン系プライマー。

16kg/缶

改質アスファルト系塗膜材

アスクールC

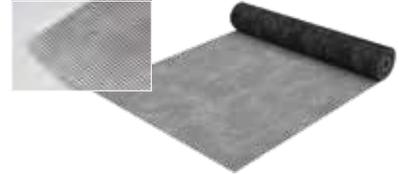


アスファルト系材料との接着性に優れる、立上り・架台用の反応硬化型改質アスファルト系塗膜防水材料。

20kg/セット (A剤:5kg、B剤:15kg)

不織布シート

マットFCII



ポリエステル繊維を用いた立上り用補強布。表面のメッシュを埋める要領で塗膜材を塗布する。裏面は不織布仕上げ。

1,050mm×50m巻
(カット品:200mm×50m)

増張り用シート(トーチ工法)

ポリマリット25



2層工法に用いる下張りおよび立上り部用の改質アスファルトシート。
JIS A 6013非露出複層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:2.5mm

増張り用シート(自着工法)/目地補強用テープ

ポリマリットGL/ポリマリットGL(カット200)



裏面全面に粘着層を設けた改質アスファルトシート。 JIS A 6013非露出複層防水用R種II類
カット200は片面粘着タイプのテープ。コーナー・入隅部などの増張り、ALC板短辺部の補強に使用。

ポリマリットGL 1m×8m巻
カット200 200mm×8m巻
厚さ:2.0mm

中張り用シート

ガムクールFX/FX-33



ガムクールFXは、裏面が全面粘着タイプの中貼りシート。
FX-33はガムクールFXを裁断したもの。
JIS A 6013 非露出複層用R種II類

ガムクールFX 1m×16m巻
FX-33 330mm×16m巻
厚さ:1.5mm

水性保護塗料

SPベース



アスクールC上に塗布するアクリル系骨材入水性保護塗料。
市販の砂骨ローラーにて塗布する。

8kg/缶

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材料専用水性塗料。
日射反射率50%以上の高反射塗料。

18kg/缶 4色

変性シリコン系シーリング材(製造所推奨品)

GCライン(カート/ジャンボ)



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変性シリコン系シーリング材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱
*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

2章 9節 トレンチピット等防水工事

保全工事共通仕様書 2.9.1

一般事項

適用範囲

本節は、トレンチピット等の修繕工事に適用する。

下地処理

トレンチピット等の床の浮き、ひび割れ等の下地補修は、3.2.3(エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法)及び3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)によるほか、次による。

- イ 防水下地の汚れ及び油類等の付着物は、ブラシ、研磨紙及び水洗い等により除去する。
- ロ 防水下地床面に水たまり(結露水等)がある場合は、ウエス類で拭き取る。
- ハ 施工範囲は、床面及び立上り面(床面より300mm程度)とする。
- ニ 上記以外の下地調査及び下地処理は特記による。

保全工事共通仕様書 2.9.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法

材料・工法

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、2.7.2(ウレタンゴム系塗膜防水工法(全面修繕1回目))の3イからニ及びへによる。

工程

2.7.1 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量 /m ²	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア500/50 (自動混合・圧送システム用)	
			対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²	対応製品	使用量 /m ²
1	プライマー	0.15kg ～ 0.25kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系 塗膜防水材(注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタックサンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア 500/50	2.6kg
3	仕上塗料(注)2,3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

(注)1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注)2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注)3. 工程2の防水材及び工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章 9節 トレンチピット等防水工事

対応製品紹介

プライマー(コンクリート、モルタル下地用)

OTプライマーA



コンクリート、モルタル下地用。
四季を問わず通年で使用できる1液型のウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー(既存ウレタン防水用)

速硬化OTプライマーMブルー



塗布した部分が識別しやすい青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用仲介プライマー。

8kg/缶

ウレタンゴム系塗膜防水材

オルタックエースVR



ベランダ、応用ウレタン塗膜防水材。ダレにくく、整いやすいレベリング特性。鉛フリー配合による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立。

24kg/セット(主剤:8kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:2
硬化物比重 1.3

ウレタンゴム系塗膜防水材(速硬化型)

オルタックサンキュアR



新触媒により可使用時間をのばした速硬化ウレタン防水材。

JIS A 6021

32kg/セット(主剤:16kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:1 硬化物比重 1.2

ウレタンゴム系塗膜防水材(速硬化型機械圧送用)

オルタックサンキュア500/50



OSS(オルタックサプライシステム:自動混合・圧送システム)用のウレタン防水材。

JIS A 6021

500 450kg/セット
(主剤:172kg、硬化剤:278kg)
50 31kg/セット(主剤:12kg、硬化剤:19kg)
硬化物比重 1.3 ※500、50共に受注生産品

仕上げ塗料

OTコートA



2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。

14kg/セット(主剤:6kg、硬化剤:8kg)
*OTコートA タッチアップ 700gセット(標準色4色のみ)もあり

仕上げ塗料

OTコートAつやあり



2液反応型アクリルウレタン系つやあり保護塗料。新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。

14kg/セット(主剤:6kg、硬化剤:8kg)
*OTコートAつやあり タッチアップ 700gセット(標準色4色のみ)もあり

防滑材

Uチップ/Mチップ



保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。Uチップは、ウレタンエラストマーを細かなチップ状に粉碎したもの、Mチップは、アルミノシリケート系無機質微小中空球体材。Uチップより粗面仕上げ。

Uチップ 300g/箱(保護塗料14kgセットに対して1箱を添加)
Mチップ 420g/箱(保護塗料14kgセットに対して1箱添加)

速乾性1液ウレタン系シーリング材(製造所推奨品)

OTシール



オルタックシート端末部に施工する、速乾性1液のウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

2章 10節 階段室床防水工事

保全工事共通仕様書 2.10.1

一般事項

適用範囲

本節は、階段室床の防水工事に適用する。

下地処理

階段室床の欠け等の下地補修は、3.2.3(エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法)及び3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)によるほか、次による。

- イ 階段室床の排水に著しく影響する不陸等は、3.2.5(モルタル欠損部修繕工事)の2のメンテモルタル等又は製造所が指定する下地調整材を用いて排水勾配を設ける等の排水処理を行う。
- ロ 階段既存ノンスリップの固定状況を確認し、浮き等の不良がある場合は、監督員の確認を受けた後、撤去する。撤去した部分は、速硬軽量モルタル等により補修する。なお、速硬軽量モルタルの品質等は、「機材及び工法の品質判定基準」による。
- ハ 既存ノンスリップに錆がある場合は、錆落しを行う。
- ニ 既存ノンスリップ上面及び階段踏面の不陸は、シーリング材又は製造所の仕様による専用下地調整材にて処理する。
- ホ 玄関扉下部の取合い部高さが5mm以下の部分は、既存仕上げモルタルに溝を設け、くつずりの高さを確保する。
- ヘ 貫通配管の根元は、塗料、錆をケレン等で落し、シーリング処理する。
- ト 排水溝の階段側入隅部、ドレン廻りは、シーリング処理する。
- チ 幅0.5mm以上のひび割れは、シーリング材又は製造所の仕様による専用下地調整材で処理する。

保全工事共通仕様書 2.10.2

超速硬化ウレタン吹付工法(全面修繕1回目)

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ プライマーは一液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマーとし、製造所の仕様による。
- ロ 超速硬化ウレタン吹付け材は、二液反応型ウレタン吹付け材とする。
- ハ 仕上塗料は、製造所の仕様による。
- ニ 下地補修用シーリング材は、JIS A 5758(建築用シーリング材)によるものとし、特記なき限り、2成分形ポリウレタン系シーリング材とする。

工程

2.10.1 表 超速硬化ウレタン吹付工法の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	一液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマー	0.15kg	OTプライマーQQ	0.2kg
2	超速硬化ウレタン吹付け材	1.5kg	オルタックスプレーFF	1.5kg
3	仕上塗料	0.15kg	OTコートQQ	0.2kg

※各工程の養生時間は製造所の仕様による。

2章 10節 階段室床防水工事

保全工事共通仕様書 2.10.3

超速硬化ウレタン吹付工法(全面修繕2回目以降/仕上塗料塗替え)

適用範囲

本項は、階段室床に超速硬化ウレタン吹付工法による防水が施された階段の全面修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、仕上塗料塗替え工法とする。なお、既存防水層の劣化が著しく、当該工法が適さない部分は撤去し、2.10.4(超速硬化ウレタン吹付工法(部分修繕))を適用する。

下地調査

- (1) 防水の施工に先立ち、既存塗膜の種類、劣化状態及びその下地の調査を行う。
- (2) 既存塗膜のふくれ、浮き、はがれ状況を確認する。

下地処理

詳細は「[保全工事共通仕様書](#)」→ 71ページ

材料

材料は2.10.2(超速硬化ウレタン吹付工法(全面修繕1回目)の1)によるほか、使用するプライマーは既存防水層と付着性の良いものとする。

工程

2.10.2 表 仕上塗料塗り替え工法の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	一液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマー	0.1～0.15kg	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg
2	仕上塗料	0.15kg	OTコートQQ	0.2kg

※各工程の養生時間は製造所の仕様による。

2章 10節 階段室床防水工事

保全工事共通仕様書 2.10.4

超速硬化ウレタン吹付工法(部分修繕)

適用範囲

本項は、階段室床に超速硬化ウレタン吹付工法による防水が施された階段の部分修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系塗膜防水手塗り工法とする。

下地処理

詳細は「[保全工事共通仕様書](#)」→ 72ページ

材料

材料は施工性が良く、乾燥性の速い製品によるほか、次による。

- イ プライマーは速硬化型ウレタンゴム系プライマー(一液性湿気硬化型)等の既存塗膜防水撤去後の下地に対して付着性の良い製品とし、製造所の仕様による。
- ロ 塗膜防水材は、JIS A 6021(建築用塗膜防水材)ウレタンゴム系高伸長形に適合する製品とするほか、製造所の仕様による硬化速度の優れた速硬化型のものとする。
- ハ チップ材(粒径0.2mm程度)は、製造所の仕様による。
- ニ 仕上塗料は、製造所の仕様による。

工程

2.10.3 表 ウレタンゴム系塗膜防水手塗り工法の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	一液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマー	0.1～0.15kg	速硬化OTプライマーMブルー	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg(注)	オルタックサンキュアR	1.8kg
3	チップ材(粒径0.2mm程度)散布	10g	Uチップ	10g
4	仕上塗料	0.15kg	OTコートQQ	0.2kg

(注) 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※各工程の養生時間は製造所の仕様による。

2章 10節 階段室床防水工事

対応製品紹介

プライマー(コンクリート、モルタル下地用)

OTプライマーA



コンクリート、モルタル下地用。
四季を問わず通年で使用できる1液型のウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー(既存ウレタン防水用)

速硬化OTプライマーMブルー



塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用仲介プライマー。

8kg/缶

超速硬化ウレタン吹付け材

オルタックスプレーFF



高強度形スプレー用ウレタン塗膜防水材。
JIS A 6021

F 390kg/セット
(主剤:200kg、硬化剤:182kg、トナー:8kg)
FF-S 35.12kg/セット
(主剤:18kg、硬化剤:16.4kg、トナー:0.72kg)
硬化物比重:1.0 標準色:グレー

ウレタンゴム系塗膜防水材(速硬化型)

オルタックスンキュアR



新触媒により可使用時間をのばした速硬化ウレタン防水材。
JIS A 6021

32kg/セット(主剤:16kg、硬化剤:16kg)
配合比 1:1 硬化物比重 1.2

防滑材

Uチップ



保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。
ウレタンエラストマーを細かなチップ状に粉碎したもの。

300g/箱
(保護塗料14kgセットに対して1箱を添加)

防滑材

Mチップ



保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。
アルミノシリケート系無機質微小中空球体材。
Uチップより粗面な仕上げとなる。

420g/箱
(保護塗料14kgセットに対し1箱添加)

仕上げ塗料(速硬化形)

OTコートQQ



スプレー工法用の速硬化型の2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。

15kg/セット(主剤:6kg、硬化剤:9kg)

2章 11節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2.11.1

一般事項

適用範囲

本節は、勾配屋根の改修工事に適用する。

保全工事共通仕様書 2.11.2

既存シングル改修工法(改質アスファルトシート防水)

適用範囲

本項は、既存シングル屋根の修繕に際して、劣化が激しく飛散のおそれがある場合に改質アスファルトシート防水を行う場合に適用する。

既存屋根の調査及び試験

(1) 既存下地の調査

改修工事に先立ち、既存シングルの劣化状態、下地への付着力及び断熱材と下地との付着状況について目視調査及び付着力試験を行う。

(2) 付着力の試験

イ 試験は、次の①から④の防水層別を実施し、各棟全項目につき1箇所以上屋根面で測定する。なお、測定箇所は監督員と協議する。

- ① シングル材相互の張り重ね部
- ② シングル材と下葺き防水材の張り付け部
- ③ 下葺き防水材と屋根下地の張付け部
- ④ 断熱材と下地屋根の張り付け部(既存が断熱工法の場合)

ロ 試験は、①②③については各層間、④については断熱材と下地の接着部分で付着力を測定する。

ハ 付着強度は、①、②及び③は、1.8N/cm²以上、④は、3.5N/cm²以上であることを確認する。

ニ 既存シングル等の付着強度が所定の強度を得られない場合は、監督員と協議する。

下地処理

(1) 残置する既存防水層の表面(シングル材又は下葺き防水材)は全面清掃を行い、苔、土砂等の汚れを除去し、乾燥させる。

(2) 下地の不陸及び欠損箇所は、改質アスファルトシートの増張りで補修を行う。なお、不陸が著しい場合及び既存断熱材の剥離箇所等の処置は、監督員と協議する。

(3) 軒先及びケラバ等周辺部(以下外周部という)の既存シングルと既存断熱材は、端部から300mm程度撤去し、水切り金物、栈木類も併せて撤去する。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

イ 断熱材の適用は特記による。断熱材は、2.4.2(外断熱露出アスファルト防水工法(全面修繕1回目))の3イによる。

ロ アスファルト系下地活性剤は2.3.2(アスファルト防水常温工法(非断熱部))の2ロによる。

ハ 改質アスファルトシートは、JIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)に規定する単層用とし、厚さは2.3.2表による。

ニ 下層用の自己粘着型シートはJIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)に規定する非露出複層防水用で、厚さ1.5mm以上とする。

ホ 増張り用シートは、JIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)に規定する非露出複層防水用とする。

ヘ 仕上塗料は、製造所の仕様による。

ト アルミ製水切り金物及びアンカープラグ付ビスは、製造所指定の材料及び工法とする。

2章 11節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2.11.2

既存シングル改修工法(改修アスファルトシート防水)

工法

工法は「機材及び工法の品質判定基準」によるものとし、既存シングルを残して改修する「かぶせ方式」とする。ただし2.11.1表の付着力試験の判定が不合格となった場合は次による。

- イ 2(2)イの①又は②で所定の強度が得られない場合は、既存シングルを撤去し、下葺き防水材を残して改修する。
- ロ 2(2)イの③又は④で所定の強度が得られない場合は、監督員と協議する。

2.11.1 表 付着力試験の選定基準

試験(箇所) 種別	①シングル材相互の 張り重ね部	②シングル材と下葺き防水材の 張り付け部	既存断熱材なし	既存断熱材あり
			③下葺き防水材と屋根下地の 張り付け部	④断熱材と下地屋根の張り付け部 (既存が断熱工法の場合)
かぶせ方式	合格	合格	合格	合格
既存シングル撤去 (下葺き防水材残し)	不合格	不合格	合格	合格
協議	-	-	不合格	不合格

工程

2.11.2 表 改質アスファルトシート防水(一般部)の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	アスファルト活性化剤	1.2kg(0.8kg) (注)1	リベースSL	1.2kg
2	接着剤(注)2	-	レイコーセメント	1.2kg
	粘着材 (部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等)(注)2	-	-	-
3	硬質ウレタンフォーム(注)2,3	-	ギルフォーム	-
4	自己粘着型シート	-	ガムクールFX	-
5	改質アスファルトシート	-	ガムクールキャップEX	-
6	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注)1. 工程1の使用量()内は、「撤去方式」の場合に適用する。

(注)2. 工程2及び3は、断熱材を取り付ける場合に適用する。

(注)3. 工程3の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2章 11節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2.11.2

既存シングル改修工法(改修アスファルトシート防水)

工程

2.11.3 表 改質アスファルトシート防水(外周部)の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	アルミ製水切金物	-	アスファルトプライマー-SS	0.2kg
			フラッシングテープ	-
			シングルドリッパー(エッジ) T25～T50	-
2	接着剤	-	レイコーセメント	1.2kg
	粘着材 (部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等)	-	-	-
3	硬質ウレタンフォーム(注)	-	ギルフォーム	-
4	自己粘着型シート	-	ガムクールFX	-
5	改質アスファルトシート	-	ガムクールキャップEX	-
6	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注) 工程3の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2章 11節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2.11.2

既存シングル改修工法(改修アスファルトシート防水)

標準納まり図(参考図)

図1 軒先改修図

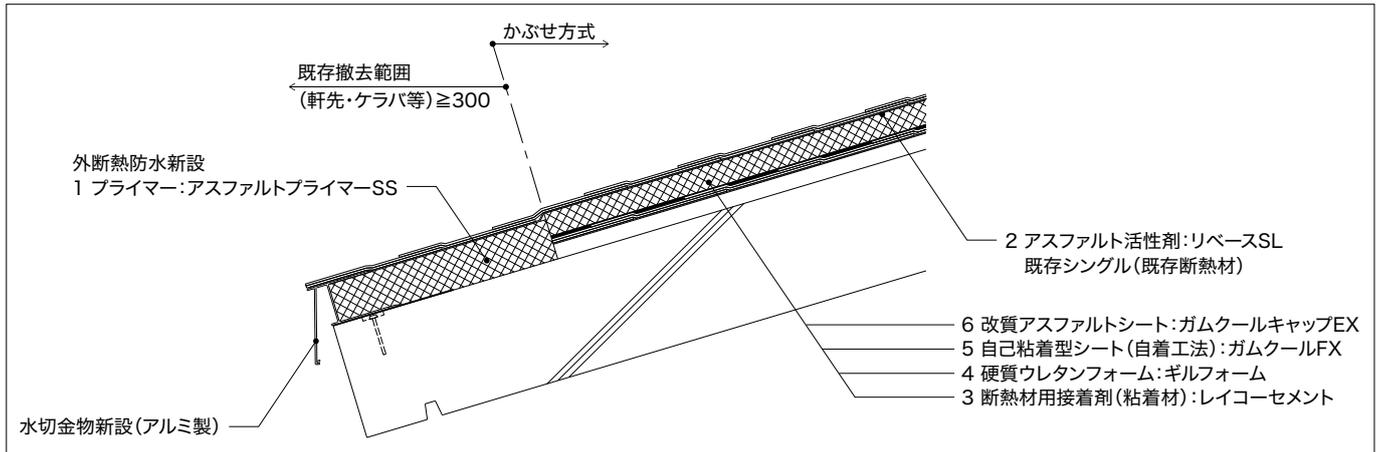


図2 棟部分 改修図

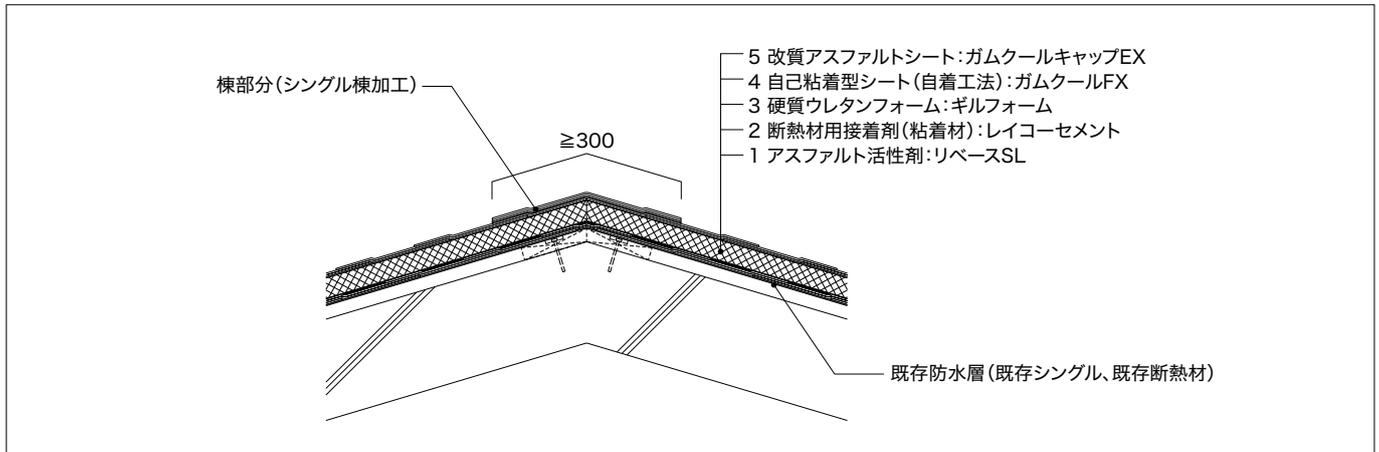
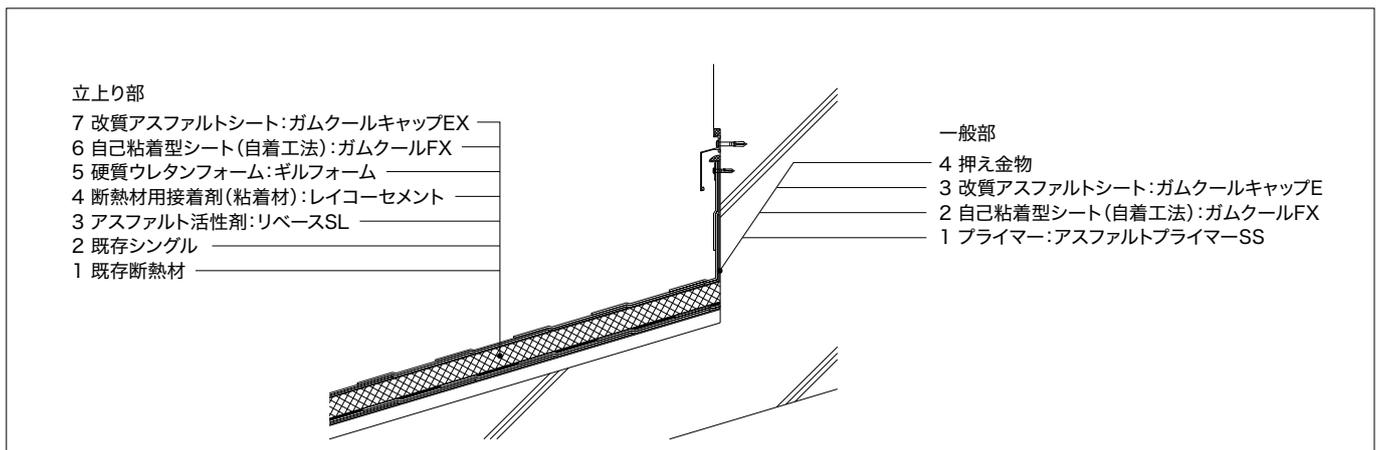


図3 壁立上り部分 改修図



2章 11節 勾配屋根改修工事

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理材。

16kg/缶

アスファルト活性化剤

リベースSL



既存防水層を活性化するアスファルト系下地処理材。勾配でもダレにくく、ウールローラーで塗布できる低粘度タイプ。

20kg/缶

断熱材用接着剤

レイコーセメント



合成ゴムを含有した改質アスファルトをペーストタイプに仕上げた、断熱材ギルフォーム、およびパリストア張付け用の接着剤。

18kg/缶

断熱材(硬質ウレタンフォーム)

ギルフォームS/W



写真はギルフォーム35S

外断熱用の硬質ウレタンフォーム。熱伝導率が極めて低い炭化水素系発泡ガスを内包した、完全ノンフロントタイプの断熱材。SとWの2サイズがある。

S:605mm×910mm
W:900mm×1,200mm(受注生産品)
厚さ:25、30、35、40、50、60、70、75mm
※Sの70、75mm、Wは受注生産品

中張り用シート

ガムクールFX/FX-33



ガムクールFXは、裏面が全面粘着タイプの中貼りシート。FX-33はガムクールFXを裁断したもの。JIS A 6013 非露出複層用R種II類

ガムクールFX 1m×16m巻
FX-33 330mm×16m巻
厚さ:1.5mm

改質アスファルト(自着工法)

ガムクールキャップEX



表面が砕石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。JIS A 6013 露出単層防水用R種II類

1m×8m巻
厚さ:3.5mm

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材料専用水性塗料。日射反射率50%以上の高反射塗料。

18kg/缶 4色

ゴムアスファルト系シール材

強カガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ
20本/箱
20kg/缶、9kg/缶

変性シリコン系シール材(製造所推奨品)

GCライン(カート/ジャンボ)



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変性シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱
*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

2章 11節 勾配屋根改修工事

対応製品紹介

階段調整用アスファルト系ボード(製造所推奨品)

パリストアー/シングルシャドー155



シングル撤去後の軒先やケラバの段差調整用アスファルト系ボード。

①パリストアー 6mm×500mm×1m
②シングルシャドー155 6mm×155mm×1m
10枚/束(シャドーパターンにも使用)
※②は受注生産品

水切金物固定補助両面テープ(製造所推奨品)

フラッシングテープ



剥離紙マス目面が下地側

耐風圧性能向上のための、水切金物固定補助両面粘着テープ。金物の貼直しが容易にできるよう、表側は経時で徐々に粘着力が増す。

160mm×25m巻

材料紹介

下地処理材(製造所推奨品)

ポリマーセメントモルタル

リグレー・ネオ/リグレー・ネオ パウダー



下地補修用SBR系ポリマーセメントモルタル。リグレー・ネオ(SBR系混和液)とパウダーを混練して使用。※水を添加しないでください。

リグレー・ネオ 18kg/缶
リグレー・ネオ パウダー 薄塗り用:20kg/袋
厚塗り用:20kg/袋

水性エポキシ系下地調整剤

リグレーエポ

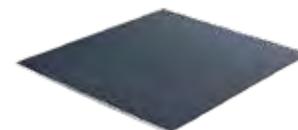


荒れたコンクリート等の下地はもちろん、タイル、金属材などに被膜を形成。各種下地材への接着性に優れた水性エポキシ系の下地調整材。

28kg/セット
(主剤:4kg、硬化剤:4kg、パウダー:20kg)
*シルバー塗料の上には使用できません。

アスファルトパネル

バリボードPS



アスファルトに無機質充填材を配合し板状に成型したパネル材。裏面は砂粒層で下地水分を拡散。容易に施工でき、耐衝撃性・耐圧縮性に優れる。

1m×0.9m/枚
厚さ:4mm
*砂付面を下にして使用。

仮防水材

アスグランド/グランドパウダー



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグランド 9kg/缶
グランドパウダー 12kg/袋

マルチグランド/グランドパウダー



既存防水層撤去後のアクリルエマルジョン系仮防水材。

マルチグランド 10kg/箱
グランドパウダー 12kg/袋

アスファルトパネル用目地テープ

バリテープC



バリボードPSの目地部増し貼り用。剛性が高く強靱な片面粘着層付きのテープ。

100mm×20m巻

目地処理材

メジパス



表面を特殊加工した、アルミ製の改修工事用目地キャップ。既存押えコンクリート目地を利用した「目地通気システム」に使用する。

90mm×1m 厚さ:0.3mm
100枚/箱
*黒ライン表示の面を上にして使用。

水切りテープ

オルタックアゴテープ



パラペットアゴ下専用の粘着層付水切りテープ。

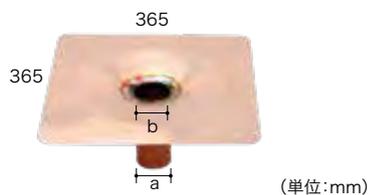
48mm×50m巻
厚さ:0.14mm

材料紹介

改修用ドレン(製造所推奨品)

排水用ドレン たて用

リードレンCたて



(単位:mm)

改修工事用たて型銅製ドレン。
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

つば:365mm×365mm 筒長さ:150mm
13サイズあり(標準品は5サイズ)
*詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください。

ドレンキャップ190/たてAS



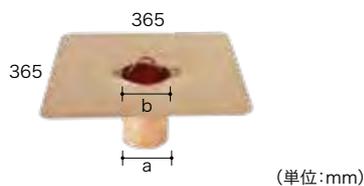
(単位:mm)

アルミダイキャスト製縦引き用ドレンキャップ。
ステンレス製板バネ(樹脂製キャップ付)をドレン内部に差し込んで設置。

ドレンキャップ190 色:黒 1個/箱
ドレンキャップたてAS 色:黒、ライトグレー 5個/箱

排水用ドレン たて用

リードレンZたて



(単位:mm)

連結式の改修工事用たて型銅製ドレン。丸棒部でドレンキャップと連結する。既存ドレン上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

つば:365mm×365mm 筒長さ:150mm
1個/箱 標準品5サイズ
*「リードレンキャップZたて」以外との組合せ使用不可。

リードレンキャップZたて



(単位:mm)

リードレンZ専用の連結式縦引用キャップ。軸芯部のJフックをリードレンZの丸棒部に掛け、Wナット締めで連結固定する。アルミダイキャスト製。

色:黒 1個/箱
*「リードレンZたて」以外との組合せ使用不可。

リードレンCたて:13サイズ/リードレンZたて:(表内の下線表示)5サイズ

呼称	35※	45※	50※	<u>60</u>	<u>65</u>	<u>75</u>	<u>80</u>	<u>95</u>	120※	130※	140※	150※	160※
外径(a)/mm	35	45	50	58	64	74	80	95	119	129	139	149	159
内径(b)/mm	33	43	48	56	62	72	78	92	117	127	137	147	157
許容最大屋根面積(m ²)*	22	44	60	90	118	176	218	339	645	804	984	1190	1410

*SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。
*詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください。

【注意】

- リードレンCたての受注生産品(※)は納期約2週間。
- リードレンZたての標準品以外のサイズは特注品として承ります。(納期約3週間)
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンケーシングDX」のご利用が便利です。

材料紹介

改修用ドレン(製造所推奨品)

排水用ドレン 横用

リードレンC横

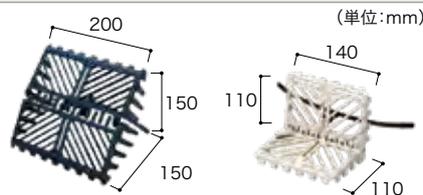


(単位:mm)

改修工事用横型銅製ドレン。
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

つば:下表参照
ホース有効長さ:500mm
7サイズあり(標準品は3サイズ)
*詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください。

ドレンキャップ横引用C200/AS



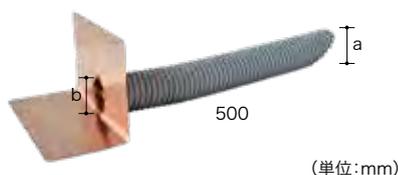
(単位:mm)

角度調節ができるアルミダイキャスト製ドレンキャップ。
固定用ステンレス製板バネ付。

ドレンキャップ横引用C200 色:黒 1個/箱
ドレンキャップ横引用AS 色:ライトグレー 1個/箱

排水用ドレン たて用

リードレンZ横

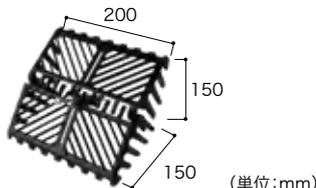


(単位:mm)

連結式の改修工事用横型銅製ドレン。
丸棒部でドレンキャップと連結し、既存ドレン上に設置することで二重ドレンシステムとなる。
専用アンカー付属。

つば:下表参照
ホース有効長さ:500mm
標準品3サイズ 1個/箱
*「リードレンキャップZ横」以外との組合せ使用不可。

リードレンキャップZ横



(単位:mm)

リードレンZ専用の連結式横引用キャップ。
中央のJフックで連結固定する。納まりに合わせてキャップの角度調節が可能。
アルミダイキャスト製。

色:黒 1個/箱
*「リードレンZ横」以外との組合せ使用不可。

リードレンC横:7サイズ(標準品:表内の下線表示、受注生産品:表内の※印)

リードレンZ横:3サイズ(表内の下線表示)

呼称	40※	50※	<u>60</u>	<u>75</u>	<u>90</u>	115※	140※
ホース 外径(a)/mm	40	46	60	73	86	112	137
筒 内径(b)/mm	30	36	49	60	73	99	124
つば 幅 寸法(c)/mm	250	250	250	300	300	365	365
つば 高さ 寸法(d)/mm	132	138	150	160	175	200	225
つば 奥行 寸法(e)/mm	140						
配管勾配ごとの 許容最大屋根面積(m ²)*	1/25	17	28	65	111	187	—
	1/50	—	—	46	78	132	298
	1/75	—	—	—	64	108	243
	1/100	—	—	—	—	93	211

*SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。
*詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください。

【注意】

「リードレンC横/Z横」のフレキシブルホースは、エルボより下に落とし込んでください。
落とし込んでいない場合、水が逆流する可能性が高まります。

- リードレンCの受注生産品(※)は納期約2週間。
- リードレンZの標準品以外のサイズは特注品として承ります。(納期約3週間)
- リードレンC横/Z横は、左表サイズの他に35・100タイプを特注品として作成できます。(納期約3週間)
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンゲージDX」のご利用が便利です。

材料紹介

脱気筒・水切り金物(製造所推奨品)

脱気筒

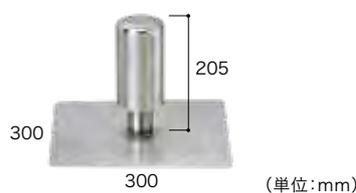
ステンレスベースII



防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。
全体の形状を小型・軽量化したコンパクト設計。
70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

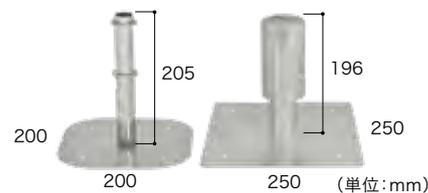
ステンレスベースN



防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気部材。
70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱
端部締結用銅線同梱
*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

ステンレスベースWII

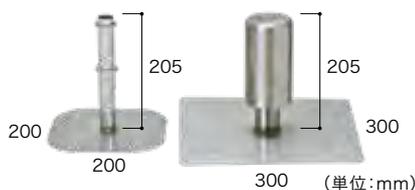


断熱工法に使用する、二重式の平面部用ステンレス製通気材。
全体の形状を小型・軽量化したコンパクト設計。
70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

脱気筒

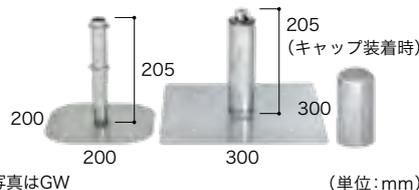
ステンレスベースW



断熱工法に使用する、二重式のステンレス製平面部用通気部材。
70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱
端部締結用銅線同梱
*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

ステンレスベースG/GW



逆流防止弁付の平面部用通気材。
Gは非断熱用、GWは断熱工法用の二重式。
70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱
端部締結用銅線同梱
※受注生産品
*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

水切り金物

フラッシュエッジ70A/110A



防水層を挟み込むサンドイッチ方式で端末からの雨水浸入を防ぐアルミ水切り。

長さ:2,000mm

フラッシュトップ60



防水層端末押えアングルと水切金物を組合せた二重方式の雨仕舞材。

長さ:2,000mm

防滑性ビニル床シート

ビュージスタ

集合住宅の共用廊下、バルコニー、階段、エントランスなどに最適な、耐候・防滑性ビニル床シート「ビュージスタ」。
 耐久性、防滑性はもちろんのこと、マンションの居住性を高める美しく飽きのこない豊富なデザインをご用意しています。
 清掃性や発音低減などの高機能シリーズもラインナップしています。



VIEW GISTA

\ 全12柄46アイテムのラインナップ /



お掃除らくらく
 砂や塵を掃き出しやすいエンボス形状で清掃性と防滑性を両立。



いたわりウォーク
 低深度の表面エンボスが、スムーズな歩行性や優れた清掃性を実現。



省音やすらぎ
 発音層により歩行音を軽減するやすらぎ設計。



パイルライン
 ホテルライクなカーペット調の空間を演出。



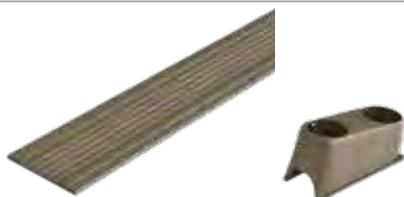
マーブル
 質感豊かな大理石の粗面仕上げ調。



ソフトウッド
 横貼りの木目調仕上げで、リビングと連続する空間に。

エアコン排水用部材

VG排水レール／VG排水ホルダーEX



エアコン室外機から流れ出る水の拡散を防止する排水用レールとエアコン排水ホース固定部材。静音・躓き(つまずき)防止タイプのVG排水レールEXもあり。

VG排水レール 厚さ:3.0mm 幅:45mm
 長さ:25m

接着剤

セメントVG



一液性のウレタン樹脂系接着剤。作業性が良く、耐水性に優れる。標準使用量:約55㎡(18kg/缶) オープンタイム:約15分(20℃)

18kg/缶 4色

シーリング材

VGシールMS



ビュージスタおよびビュージスタステップの端部処理用変成シリコン系シーリング材。一液性のため、作業性が良く、蹴上げ等の立上り施工性に優れる。

330ccカートリッジ
 2本/箱

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。
- ・下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。